宇都宮大学教育学研究科専門職学位課程シラバス

No.	開講	曜日・時限	時間割コード	科目	担当	参　照
1	前期	月1,2	M401220	授業研究の運営と課題	松本　敏	参照
2	前期	月3,4	M402240	国語授業デザイン論	菊地　高夫	参照
3	前期	月5,6	M401110	カリキュラム開発の実践と課題	青柳　宏	参照
4	前期	月9,10	M401230	肢体不自由教育の理論と実践	岡澤　慎一	参照
5	前期	火1,2	M402310	授業における個のとらえ方と対応	司城　紀代美	参照
6	前期	火3,4	M401310	生徒指導の実践と課題	青柳　宏	参照
7	前期	水1,2	M402150	学校における「管理」実践とその課題	小野瀬　善行	参照
8	前期	水1,2	M402210	授業実践基礎	青柳　宏	参照
9	前期	水1,2	M402221	授業実践基礎（特別支援）	岡澤　慎一	参照
10	前期	水3,4	M402110	集団作り論	菊地　高夫	参照
11	前期	水5,6	M402230	言語活動を軸にした教育内容・方法論	青柳　宏	参照
12	前期	水7,8	M402330	特別な支援が必要な子どもへの理解と対応	司城　紀代美	参照
13	前期	木1,2	M402260	社会科授業デザイン論	松本　敏	参照
14	前期	木5,6	M401520	現代教師論	小野瀬　善行	参照
15	前期	木7,8	M401410	学校改革の実際と課題	小野瀬　善行	参照
16	前期	金1,2	M401320	特別支援教育の実践と課題	司城　紀代美	参照
17	前期	他	M402280	英語授業デザイン論	田村　岳充	参照
18	通年	金5,6,7,8	M403110	リフレクションⅠ	小野瀬　善行	参照
19	通年	金5,6,7,8	M403120	リフレクションⅡ	小野瀬　善行	参照
20	通年	他	M404110	教育実践プロジェクトⅠ	小野瀬　善行	参照
21	通年	他	M404120	教育実践プロジェクトⅡA	小野瀬　善行	参照
22	通年	他	M404130	長期インターンシップ	小野瀬　善行	参照
23	通年	他	M404140	教育実践プロジェクトⅡB	小野瀬　善行	参照
24	通年	他	M404170	長期ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ（特別支援学校）	司城　紀代美	参照
25	通年不定時	他	M404150	教育実践ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄⅠ（特別支援学校）	司城　紀代美	参照
26	通年不定時	他	M404180	教育実践ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄⅡB（特別支援学校）	司城　紀代美	参照
27	通年不定時	他	ME404160	教育実践ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄⅡA（特別支援学校）	司城　紀代美	参照
28	前期集中	他	M402130	栃木の学校改革	菊地　高夫	参照
29	後期	月7,8	M402270	理科授業デザイン論	人見　久城	参照
30	後期	月9,10	M402300	病弱教育の理論と実践	岡澤　慎一	参照
31	後期	金3,4	M402290	道徳授業デザイン論	和井内　良樹	参照

No.	開講	曜日・時限	時間割コード	科目	担当	参　照
32	後期	他	M402320	特別支援教育コーディネーターの役割と課題	原田 浩司	参照
33	後期不定時	他	M4014300	教科教育特論	牧野　智彦	参照
34	後期不定時	他	M401440	教材論	井口　智文	参照
35	後期集中	他	M401235	知的障害教育の理論と実践	司城　紀代美	参照

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	授業研究の運営と課題
代表教員名／Instructor	松本　敏 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	人見久城
授業種別／Type of class	
時間割コード／Registration Code	M401220
ナンバリング／Numbering ※試行中	9999999F
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　前期／First semester
開講曜日　時限／Class period	月／Mon　1 , 月／Mon　2
単位数／Credits	2
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	松本　敏(松本 敏(satoshim@cc.utsunomiya-u.ac.jp))
オフィスアワー／Office hours	松本　敏(松本 敏(月曜日12時～12時30分，火曜日10時30分～12時30分))

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/17
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	授業分析の視点と方法を具体的に学習し，ビデオ視聴により授業分析を行う。分析結果を，授業のねらい，子どもの理解との関係で論じ合い，授業改善の方策を探る。教科等の特質に応じた授業分析の方法についても事例をもとに考える。学校内外での教員研修やそこで行われている授業研究の実態と課題について議論し、授業研究の質を高める議論の在り方についても省察と討論を通して考える。中学校を中心とした科目であるが連続性を踏まえ小学校の内容にも触れることとする。
授業の到達目標 ／Course Goals	（現職院生） 自らの授業観察の方法、授業を議論する方法を省察し、他の方法と比較して論ずることができる。授業研究会のファシリテーターとして、異なる意見を公平に扱い、議論を深めるための考え方と技能を習得する。 （学卒院生） 授業観察の方法、授業を議論する方法を身につける。 授業研究によって、授業改善への道筋を考えることができることを知る。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	共通科目，必修。「3つの力」のうち「授業力」に関わる。
前提とする知識 ／Prerequisites	授業を行った経験，授業観察を行った経験をもつこと。
関連科目 ／Related Courses	共通科目では、「教材開発と教育方法の実践と課題」と関連があります。 選択科目では、「授業実践基礎」「授業における個のとらえ方と対応」と関連します。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	（授業の方法） ビデオによる授業の観察を行い、授業記録をとり、それをもとに授業研究会を行う作業を繰り返す。それにより授業観察の視点、意見の組み立て方、議論の仕方を訓練する。その過程で、その議論自体を省察し、自らの観察や意見の偏りについて自覚し、より公正で多面的な議論が行われるために必要な態度とスキルを身に付ける。 （共に学ぶ効果と手だて） 現職院生は授業研究を数多く経験しているのに対し、学卒院生は学部での教育実習や教職実践演習など限定的なものしか経験していない。このような差のある集団で、実際の授業を撮影したビデオを観察し記録を取り、それに基づいて議論を行う。 学卒院生は当初何を観察し何を記録すべきかさえ覚束ないかもしれないが、現職院生が経験に基づいて観察記録を書き進めるようすを見て、観察の視点や記録の取り方を学んでいく。 グループごとの発表は、最初は現職院生が模範を示すが、２回目からは学卒院生に発表させるようにする。回を重ねるにしたがって、学卒院生の技能が上がっていく。 現職院生は学卒院生に当初範を示すだけに見えるが、学卒院生の観察の視点の新鮮さや子どもの気持ちへの寄り添い方など、経験を積んだためにかえって見失っていたものに気づき、自分の見方の偏りに気づくようになる。異なる視点や考え方から授業像を再構築する体験をし、授業観察や議論の仕方について反省的に学ぶ。これは、現場に戻ったときに、授業研究会のよりすぐれたファシリテーターになるための基礎を提供することになる。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	１．オリエンテーション 授業の趣旨、進め方について説明する。日本における授業研究の歴史と国際的な位置づけ、県内外の現状と課題について講義する。（松本・人見） ２．授業研究の理論 現代のリフレクション理論や授業研究の理論について講義する。(松本) ３．授業研究の方法 現在行われているいくつかの授業研究方法について，比較検討する。（松本） ４.授業研究（１－１） 事例として中学校理科の授業ビデオを視聴し、予め指定した様式を基に、各自で授業記録をまとめる。（人見） ５．授業研究（１－２） 前時で視聴した授業について、授業研究会を行う。現職・学卒の混成で二つのグループに分かれる。初回なのでそれぞれについた教員がファシリテーターとなって進める。（松本・人見） ６．授業研究（２－１） 事例として中学校社会の授業ビデオを視聴し、予め指定した様式を基に、各自で授業記録をまとめる。（松本）

	７．授業研究（２－２） 前時で視聴した授業について，授業研究会を行う。（松本・人見） ８．授業研究（３－１） 受講者による授業実践のビデオを視聴し，授業記録をまとめる。授業実践は現職教員のものを想定。（人見） ９．授業研究（３－２） 前時で視聴した授業について，授業研究会を行う。（松本・人見） １０．中間振り返り これまでの視聴や議論をもとに，自身の見方の変化をメタ認知的に振り返る。（松本・人見） １１．授業研究（４－１） 受講者による授業実践のビデオを視聴し，授業記録をまとめる。授業実践は現職教員のものを想定。（松本） １２．授業研究（４－２） 前時で視聴した授業について，授業研究会を行う。（松本・人見） １３．授業研究（５） 受講者による授業実践のビデオを視聴し，授業研究会を行う。授業実践は学卒院生のものを想定。（松本・人見） １４．授業研究の現状と課題 受講者それぞれの経験に基づいて授業研究の現状と課題について報告，討論する。（松本・人見） １５．まとめ これまでを振り返って，授業を見る視点と観察の仕方，授業研究会（研究協議）での意見交換の仕方や意見のまとめ方についてレポートをまとめ，小グループで意見交換をする。（松本・人見）
教科書・参考書等 ／Textbooks	恒吉他編『授業研究―重要用語300の基礎知識』明治図書，1999年. 秋田 喜代美・キャサリン ルイス『授業の研究 教師の学習』明石書店，2008年. その他 プリント教材を配布する。
成績評価の方法 ／Evaluation	授業記録の提出物・研究協議後の省察レポート、研究協議での発言等のパフォーマンスを総合的に判断して評価する。
学習上の助言 ／Learning Advice	授業を見る視点の広がりと，子どもの内面に寄り添う深まりを期待します。
キーワード ／Keywords	授業研究，授業分析，校内研修

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	国語授業デザイン論
代表教員名／Instructor	菊地　高夫 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	
授業種別／Type of class	
時間割コード／Registration Code	M402240
ナンバリング／Numbering ※試行中	9999999F
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　前期／First semester
開講曜日　時限／Class period	月／Mon　3 , 月／Mon　4
単位数／Credits	2
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	
オフィスアワー／Office hours	

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/17
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	授業実践史上、代表的な国語科授業実践をもとに国語教育研究の到達点と改革課題を明確にし、国語科授業の果たすべき役割等について受講生と共に考察・討議を行う。そのうえで国語科授業の可能性と方向性を展望し、国語科授業をデザインする手法を多角的・体験的に理解する。
授業の到達目標 ／Course Goals	（学卒院生） 授業観察を行うための視点を獲得し、立体的に授業実践を分析することができる。 現代的な課題をふまえた国語科授業を構想し、実践する際に必要とされる知識・技能を身につけることができる。 演習形式での考察・討議によって、授業をデザインし、省察に基づく授業改善を行うことができる。 （現職院生） 国語教育研究のおける歴史的遺産を基盤にし、国語教育の今日的な課題をとらえることができる。 国語科授業実践を省察的思考により分析し、新たな視点で授業実践をデザインすることができる。 国語教育を俯瞰する広い視野を身につけ、他の教員を指導できる実践力やマネジメント能力等を養うことができる。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	選択科目である。 主に授業力を育てることをねらいとする科目である。
前提とする知識 ／Prerequisites	教育職員免許状を取得する過程で手に入れた授業をデザインする知識・技能を前提としている。
関連科目 ／Related Courses	共通科目では，「授業研究の運営と課題」「教材開発と教育方法の実践と課題」と関連がある。 選択科目では，「授業実践基礎」「授業における個のとらえ方と対応」と関連する。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	（授業の方法） 演習形式を基本とし、必要に応じて講義を行う。代表的な授業実践の分析・検討を行うことによって、授業をデザインするために必要な視点を手に入れ、相手意識・目的意識を明確にした授業実践を構想していく。さらに、実践構想発表や模擬授業を行うことによって、より実践的な力量を身につけると共に、省察に基づく授業改善の手法についても議論していく。 形態としては、ワークショップ、グループワーク等、目的に応じた学習形態を導入していく。学卒院生と現職院生、それぞれの強みが活かされるような集団構成の工夫を図る。 （共に学ぶ効果と手だて） 現職院生は、学校現場の具体的な実践に立脚し、子どもの事実を基にした討議を行うことが予想されるため、学卒院生に対して観念的・思弁的な視点ではなく、実践的な視点を提示することができる。それに対して、学卒院生は現場経験ととらわれることなく、自由な視点で討議することが予想されるため、方法論に埋没しがちな現職院生に対して理論と実践との往還の視点を提供することが期待できる。したがって、できるだけ相互環流的な意見交換や合意形成をせざるを得ないような集団構成で学ぶこととする。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第１回：オリエンテーション ＊授業の目的や授業の進め方について説明を行う。受講予定者の国語授業における関心事と国語教師として身に付けたい力とを類型化する。 第２回：国語科の授業づくりを学ぶ ＊学習指導要領改訂のポイントを踏まえ、国語科における授業づくりについて考え、第３回以降の演習につなげる。 第３回：国語科授業を分析する① ＊受講生自らが、現在の国語科授業に大きな影響を及ぼしていると考えられる代表的授業実践例を複数選択し、その実践を批判的に読み解き、成果と課題についてレポートをする。それを手がかりに集団討議を行う。 第４回：国語科授業の分析する② ＊受講生自らが、現在の国語科授業に大きな影響を及ぼしていると考えられる代表的授業実践例を複数選択し、その実践を批判的に読み解き、成果と課題についてレポートをする。それを手がかりに集団討議を行う。 第５回：国語科授業を分析する③

	＊受講生自らが、現在の国語科授業に大きな影響を及ぼしていると考えられる代表的授業実践例を複数選択し、その実践を批判的に読み解き、成果と課題についてレポートをする。それを手がかりに集団討議を行う。 第６回：国語科授業ビデオを視聴する① ＊国語科授業ビデオを視聴し、模擬授業研究会を行う。授業改善の提案に力点を置く。模造紙と付箋紙を使用し、民主的な討議の手法についても検討する。 第７回：国語科授業ビデオを視聴する② ＊国語科授業ビデオを視聴し、模擬授業研究会を行う。授業改善の提案に力点を置く。模造紙と付箋紙を使用し、民主的な討議の手法についても検討する。 第８回：国語科授業をデザインするために ＊第３回から第７回の授業分析及び模擬授業研究会を基に、国語科授業を構想するための留意点をワークショップ形式で整理する。そしてそれを第９回以降の授業デザインの重要な視点とする。 第９回：国語科授業をデザインする① ＊学習指導要領をてがかりにして、「言語活動をとおして、指導事項を指導する」という原則の下、教材開発も含めた国語科授業をデザインする。（個人で構想する。グループで構想する。グループ討議を行う。） 第10回：国語科授業をデザインする② ＊学習指導要領をてがかりにして、「言語活動をとおして、指導事項を指導する」という原則の下、教材開発も含めた国語科授業をデザインする。（個人で構想する。グループで構想する。グループ討議を行う。） 第11回：授業発表及び模擬授業を行う① ＊第９回・第10回で構想した授業実践の発表を行う。部分的に模擬授業形式で発表してもよいこととする。発表後は、全員で討議を行う。単なる批評ではなく、課題のある箇所について代替案を示すことに力点を置く。 第12回：授業発表及び模擬授業を行う② ＊第９回・第10回で構想した授業実践の発表を行う。部分的に模擬授業形式で発表してもよいこととする。発表後は、全員で討議を行う。単なる批評ではなく、課題のある箇所について代替案を示すことに力点を置く。 第13回：国語科授業の今日的な課題について整理する① ＊国語教育における今日的な課題（「PISA型読解力の向上」「言語活動の充実」「主体的・対話的で深い学び」等）をテーマにして、ワークショップ形式で授業にどのように位置づけるかの議論を行う。 第14回：国語科授業の今日的な課題について整理する② ＊国語教育における今日的な課題（「PISA型読解力の向上」「言語活動の充実」「主体的・対話的で深い学び」等）をテーマにして、ワークショップ形式で授業にどのように位置づけるかの議論を行う。 第15回：総括 ＊全体をふりかえり、国語科授業で保障すべき力は何か、国語科授業において学びの必然性をどのようにして確保していくか等を議論し、レポートにまとめる。
教科書・参考書等 ／Textbooks	＊その他、テキストは適時指示をする。
成績評価の方法 ／Evaluation	・各授業での評価（振り返りワークシート）、発表内容・方法、討議内容、レポート
学習上の助言 ／Learning Advice	具体的な実践場面を詳細にイメージして、子どもの事実に即して、具体的に議論することを重視したい。

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	カリキュラム開発の実践と課題／Practice and Problems of the Curriculum Development
代表教員名／Instructor	青柳　宏 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	和井内良樹
授業種別／Type of class	
時間割コード／Registration Code	M401110
ナンバリング／Numbering ※試行中	9999999F
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　前期／First semester
開講曜日　時限／Class period	月／Mon　5 , 月／Mon　6
単位数／Credits	2
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）
連絡先／Contact	
オフィスアワー／Office hours	

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/17
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	学校をベースにした教育課程開発の意義を理解し、開発した内容・方法に関して実践と省察を行い、学校をベースにした教育課程の開発・実施について検討する。また、総合的な学習や特別活動と教科の関連を検討する。特に、同学年内の教科、総合的な学習、特別活動等の関係性（水平軸）と異なる学年間の教科、総合的な学習、特別活動等の関係性（縦軸）について事例をもとに考察をおこなう。また、そこで得られた知見をふまえて実際の教育現場の教育課程を検討し、課題を抽出し、課題に対する解決昨を探っていく。
授業の到達目標 ／Course Goals	（現職院生） 教育課程開発の理論をふまえて、各自が所属する学校の教育課程を検討し、課題を抽出し、課題に対する解決策を探っていくための技能を習得する。 （学卒院生） 学校をベースにした教育課程の開発を行う際に重要となる視点と教育課程の開発のための具体的な方法について知る。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	三つの力の内で、特に「学校改革力」の育成に資する。
前提とする知識 ／Prerequisites	学部段階での「教育課程」に関わる授業{教職科目）で獲得されている知識を前提とする。
関連科目 ／Related Courses	選択科目では、「言語活動を軸にした教育内容・方法論」と関連があります。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	教育課程開発の理論について講義と討論を行った後、教育課程開発の具体的な事例を文献及びビデオを通して検討していく。尚、講義内容の検討及び事例の検討は全てグループによる討論によって行う。また、授業は毎回、青柳宏と和井内良樹によって行う。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	１．授業の趣旨・進め方について説明する。「日本の学校の教育目標と教育課程」について講義する。 ２．「教育内容の組織化と人格・学力との関係」について講義した後、グループに分かれて「学力形成」のあり方、「人格形成」のあり方について討論する。 ３．「教育内容としての学校知：理論知と体験知」について講義した後、グループに分かれて「学校知」のもつ可能性と問題点について、また「体験知」の意義の見直しについて討論する。 ４．「教育内容選択の基礎原理：存在論的基礎」について講義した後、グループに分かれて、「「環境」への自覚の必要性」等について討論する。 ５．「教育内容構成における四つの柱」について講義した後、グループに分かれて「学問的要請」、「社会的要請」、「心理的要請」、「人間的要請」の四つの柱それぞれの意義と課題について討論する。 ６．「潜在的カリキュラム」について講義した後、グループに分かれて「潜在的カリキュラム」の意義と問題点について討論する。 ７．「教育課程における個性の位置づけ」について講義した後、グループに分かれて、特に「個と集団」の問題について討論する。 ８．事例の検討（その一）グループに分かれ、文献の購読、ビデオの視聴をふまえて提示された事例について検討を行う。 ９．事例の検討（その二）グループに分かれ、文献の購読、ビデオの視聴をふまえて提示された事例について検討を行う。 １０．事例の検討（その三）グループに分かれ、文献の購読、ビデオの視聴をふまえて提示された事例について検討を行う。 １１．事例の検討（その四）グループに分かれ、文献の購読、ビデオの視聴をふまえて提示された事例について検討を行う。 １２．事例の検討（その五）グループに分かれ、文献の購読、ビデオの視聴をふまえて提示された事例について検討を行う。 １３．事例の検討（その六）グループに分かれ、文献の購読、ビデオの視聴をふまえて提示された事例について検討を行う。 １４．事例の検討（その七）グループに分かれ、文献の購読、ビデオの視聴をふまえて提示された事例について検討を行う。 １５．「教育課程の経営と評価」について講義する。

教科書・参考書等 ／Textbooks	安彦忠彦『改訂版 教育課程編成論』日本放送出版協会、２００６年 佐藤学『カリキュラムの批評：公共性の再構築へ』世織書房、１９９６年
成績評価の方法 ／Evaluation	授業終了時に課すレポート、討論における発言等を総合的に判断して評価する。
学習上の助言 ／Learning Advice	講義内容をふまえた上で、創造的な意見を積極的にグループの中で出して欲しい。

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	肢体不自由教育の理論と実践
代表教員名／Instructor	岡澤　慎一 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	
授業種別／Type of class	演習
時間割コード／Registration Code	M401230
ナンバリング／Numbering ※試行中	
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　前期／First semester
開講曜日　時限／Class period	月／Mon　9 , 月／Mon　10
単位数／Credits	2
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可
連絡先／Contact	岡澤　慎一(岡澤 慎一(028-649-5350|okazawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp))
オフィスアワー／Office hours	岡澤　慎一(岡澤 慎一(月曜9:00～10:00，12:10～12:40))

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/02/04
ＡＬ度 ／Active Learning	AL50
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	ー
授業の内容 ／Course Description	肢体不自由教育の特色・教育内容について実践事例を通して学ぶ。肢体不自由がある子どもとの教育的係わり合いの展開過程について映像資料を用いて紹介し，係わりの糸口や行動のとらえ方，行動の意味などについて具体的に検討する。
授業の到達目標 ／Course Goals	肢体不自由のある子どもが抱える困難と障害状況について理解を深めるとともに、肢体不自由がある子どもとの教育的係わり合いの実際について具体的に検討することをとおして、肢体不自由がある子どもの行動の意味を捉えるための基本的な観点について学ぶことを目的とする。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	特別支援教育におけるより深い実践的省察力の形成・促進を意図した科目である.
前提とする知識 ／Prerequisites	特別支援教育全般に関する十分な知識
関連科目 ／Related Courses	病弱教育の理論と実践，障害の重い子どもの教育の在り方
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	教員が用意するハンドアウトおよび映像資料に基づき，受講生との議論を重ねながら進める
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	授業計画 第1回　肢体不自由の定義と状態像 第2回　肢体不自由のある子どもが抱える困難と障害状況 第3回　肢体不自由のある子どもの状態像1（肢体不自由の原因疾患：脳原性疾患） 第4回　肢体不自由のある子どもの状態像2（肢体不自由の原因疾患：神経・筋疾患） 第5回　肢体不自由のある子どもの状態像3（肢体不自由の原因疾患：骨・関節疾患） 第6回　肢体不自由のある子どもの教育1（特別支援学校における教育） 第7回　肢体不自由のある子どもの教育2（特別支援学級における教育） 第8回　肢体不自由のある子どもの教育3（通常学級における教育） 第9回　肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点1（探索活動，Joyful shared event） 第10回　肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点2（コミュニケーション・システム） 第11回　肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点3（感覚運動） 第12回　肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点4（課題学習） 第13回　肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際1（知的障害を併せ有する肢体不自由事例） 第14回　肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際2（感覚障害を併せ有する肢体不自由事例） 第15回　肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際3（医療的ケアの必要な肢体不自由事例） 試験は実施しない
教科書・参考書等 ／Textbooks	参考書・参考資料等 重度・重複障害児指導研究会（編）（1979）講座　重度・重複障害児の指導技術　第1巻～第6巻　岩崎学術出版社 川住隆一（1999）生命活動の脆弱な重度・重複障害児への教育的対応に関する実践的研究　風間書房
成績評価の方法 ／Evaluation	毎回のショートレポート（10%）と最終課題レポートおよび試験（80%）および授業中の発言や受講態度（10%）にて総合的に評価する。
学習上の助言 ／Learning Advice	

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	授業における個のとらえ方と対応／Understanding and Support for the Individuals in Classes
代表教員名／Instructor	司城　紀代美 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	松本敏　石嶋和夫　高久由紀子
授業種別／Type of class	
時間割コード／Registration Code	M402310
ナンバリング／Numbering ※試行中	9999999F
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　前期／First semester
開講曜日　時限／Class period	火／Tue　1 , 火／Tue　2
単位数／Credits	2
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	司城　紀代美(司城 紀代美(shijo@cc.utsunomiya-u.ac.jp))
オフィスアワー／Office hours	司城　紀代美(司城 紀代美(前期：水曜16:00～17:00，後期：金曜17:00～18:00 その他メールにて問い合わせてください。))

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/17
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	授業において，子どもがどのような筋道で思考し，意見を表明し，他者と協働するのかをとらえ，個々の子どもへの支援，指導の方法について検討する。授業ビデオの観察と討論により，個をとらえる力を養うとともに，他者の視点を取り入れながら自らの子どもに対する見方を修正する過程も重視する。教科指導の観点（松本），特別支援教育の観点（司城），学校現場での実務経験に基づく観点（原田・石嶋・高久）を取り入れることにより，多様な視点を獲得する。
授業の到達目標 ／Course Goals	（現職院生） 自らの個をとらえる視点や個別の支援のあり方を省察し，他者の考えを踏まえて，個々の子どもをとらえる視点を再構成する。 個の理解と支援という視点から授業を構築する力をつける。 （学卒院生） 授業において個をとらえる視点や個別の支援方法を身につける。 討論を通して，自分の見方や考え方を省察する力をつける。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	選択科目（学卒院生必修）。 主に，「個への対応力」を育てることをねらいとする科目である。
前提とする知識 ／Prerequisites	共通科目では、「個に応じた指導の実際と評価」「授業研究の運営と課題」「特別支援教育の実践と課題」と関連があります。 選択科目では、「授業実践基礎」「特別な支援が必要な子どもへの理解と対応」と関連します。
関連科目 ／Related Courses	共通科目では、「個に応じた指導の実際と評価」「授業研究の運営と課題」「特別支援教育の実践と課題」と関連があります。 選択科目では、「授業実践基礎」「特別な支援が必要な子どもへの理解と対応」と関連します。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	（授業の方法） 授業ビデオの記録作成とそれに基づく協議を繰り返すことで，個をとらえる力を養う。研究者教員が自分の専門分野を生かした子どもの見方を提示することで，受講者の視点が多様なものになると考えられる。また，実務家教員の学校現場での経験をもとにした事例研究を行い，より具体的な個のとらえ方と対応について理解を深めることを目指す。 （共に学ぶ効果と手だて） 現職院生はこれまでの教職経験を生かして個をとらえることができると考えられ，このことが学卒院生の見方を広げ深めることに役立つ。ただし，現職院生はその経験から子どもの見方が固定化しているとも考えられ，これに対して学卒院生の枠にとらわれない柔軟な視点が役に立つ。両者は自分にない視点を相互に得ることができ，子どもをより多角的にとらえられる教師として成長することができる。 観察記録には観察者の視点があらわれると考えられるため，現職院生と学卒院生がお互いの観察記録から学ぶことができるように観察記録をもとにした討論の場を数多く設定する。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	１．授業への導入。授業の目的，進め方等について確認するとともに，授業において個をとらえることの重要性とその方法について共通理解を図る。（司城・松本・石嶋） ２．個の児童に着目しながら授業ビデオを視聴し，観察記録をまとめ討論を行う。（松本） ３．個の児童に着目しながら授業ビデオを視聴し，観察記録をまとめ討論を行う。（松本） ４．個の児童に着目しながら授業ビデオを視聴し，観察記録をまとめ討論を行う。（松本） ５．授業における児童の思考，表現，他者との相互作用等について考察する。また，教科指導の視点から授業における個のとらえ方と対応について討論する。（松本・石嶋） ６．個の児童に着目しながら授業ビデオを視聴し，観察記録をまとめる。（司城） ７．個の児童に着目しながら授業ビデオを視聴し，観察記録をまとめる。（司城） ８．個の児童に着目しながら授業ビデオを視聴し，観察記録をまとめる。（司城） ９．授業における児童の思考，表現，他者との相互作用等について考察する。また，特別支援教育の視点から，授業における個のとらえ方と対応について討論する。（司城・石嶋） １０．実務家教員が自らの実践事例をもとに授業における個のとらえ方について話題提供し，参加者全員による討論を行う。（石嶋） １１．実務家教員が自らの実践事例をもとに授業における個のとらえ方について話題提供

	し，参加者全員による討論を行う。（石嶋） １２．附属学校の公開研究会で参観した授業について振り返りを行う。（高久） １３．実務家教員が自らの実践事例をもとに授業における個のとらえ方について話題提供し，参加者全員による討論を行う。（高久） １４．実務家教員が自らの実践事例をもとに授業における個のとらえ方について話題提供し，参加者全員による討論を行う。（原田） １５．授業全体を振り返り，教師が個をとらえ支援する過程について関する各自の考えを交流する。（司城・松本・原田・石嶋）
教科書・参考書等 ／Textbooks	（参考書） 秋田・藤江著『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会，2010. 牧田・秋田著『教える空間から学び合う場へ』東洋館出版，2012.
成績評価の方法 ／Evaluation	授業記録の提出物，研究協議後の省察レポート，討論におけるパフォーマンスを総合的に判断して評価する。
学習上の助言 ／Learning Advice	受講者一人ひとりが，自分の「問い」と授業内容とを結びつけながら参加していただければと思います。

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	生徒指導の実践と課題
代表教員名／Instructor	青柳　宏 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	菊地高夫
授業種別／Type of class	
時間割コード／Registration Code	M401310
ナンバリング／Numbering ※試行中	9999999F
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　前期／First semester
開講曜日　時限／Class period	火／Tue　3 , 火／Tue　4
単位数／Credits	2
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）
連絡先／Contact	
オフィスアワー／Office hours	

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/17
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	生徒指導に関する事例検討を通して、子ども理解の方法や、学校の体制、家庭、地域や関係機関との連携について検討する。また、スクールカウンセリング等のような生徒への個別の関わりと同時に、広く教育実践（授業を含む）における教育相談的実践の意義と方法について検討する。さらに、事例検討会等の場において多数の視点を尊重しながら検討をすすめていくための方法について考察する。
授業の到達目標 ／Course Goals	（現職院生） 自らの生徒指導・教育相談の方法を省察し、自分の行ってきた方法とは異なる方法と比較検討できるようになるとともに、事例検討会等の場において多数の視点を尊重しながら検討をすすめていくための技能を習得する。 （学卒院生） 生徒指導の方法を身につける。 生徒指導の方法を具体的に実践する際の課題について知る。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	三つの力の内、特に「個への対応力」の育成に資する。
前提とする知識 ／Prerequisites	学部段階での「生徒指導」に関わる授業（教職科目）で獲得される知識を前提とする。
関連科目 ／Related Courses	共通科目では「特別支援教育の実践と課題」と関連があります。 選択科目では「特別な支援が必要な子どもへの理解と対応」と関連があります。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	生徒指導を実践するために必要な理論について講義を行い、講義内容をふまえて、グループで討論を行う。特に現職院生及び実務家教員から学校現場における生徒指導事例を提示してもらい、その事例について検討していくことを繰り返し行う。また、授業は毎回、青柳宏と実務家・近藤秀人によって行う。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	１．「子ども・生徒理解について：依存と自立のサイクル」について講義し、講義内容について、グループに分かれて討論する。 ２．「子ども・生徒理解のための人格モデル」について講義し、講義内容について、グループに分かれて討論する。 ３．「カウンセリングの方法」について講義を行い、講義内容をふまえ、ペアに分かれて「傾聴」を実践する。 ４．「不登校の生徒指導」について講義を行い、講義内容について、グループに分かれて討論する。 ５．「いじめの生徒指導」について講義を行い、講義内容について、グループに分かれて討論する。 ６．「非行及び校内暴力の生徒指導」について講義を行い、講義内容について、グループに分かれて討論する。 ７．「授業における教育相談的な実践」について講義を行い、講義内容について、グループに分かれ討論する。 ８．事例検討会（その一）＊現職院生及び実務家教員の提示する生徒指導事例についてグループに分かれて検討を行う。 ９．事例検討会（その二）＊現職院生及び実務家教員の提示する生徒指導事例についてグループに分かれて検討を行う。 １０．事例検討会（その三）＊現職院生及び実務家教員の提示する生徒指導事例についてグループに分かれて検討を行う。 １１．事例検討会（その四）＊現職院生及び実務家教員の提示する生徒指導事例についてグループに分かれて検討を行う。 １２．事例検討会（その五）＊現職院生及び実務家教員の提示する生徒指導事例についてグループに分かれて検討を行う。 １３．事例検討会（その六）＊現職院生及び実務家教員の提示する生徒指導事例についてグループに分かれて検討を行う。 １４．「構成的グループ・エンカウンターの理論と方法」について講義を行った後、グループに分かれ実践する。 １５．授業のまとめ ＊これまでの講義及び討論内容をふまえ、グループに分かれて生徒指導の課題について討論を行い、その後、発表をし合い、それをふまえてさらに全体で議論を行う。

教科書・参考書等 ／Textbooks	諸富祥彦『はじめてのカウンセリング』上・下、誠心書房、２０１０年 山下一夫『生徒指導の知と心』日本評論社、１９９９年
成績評価の方法 ／Evaluation	授業終了後のレポート課題、及び授業時間中の討論における発言内容、また事例提示等を含め総合的に評価を行う。
学習上の助言 ／Learning Advice	現場経験者も未経験者も、講義内容をふまえ、新たな気持ちで事例に向き合って欲しい。

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	学校における「管理」実践とその課題
代表教員名／Instructor	小野瀬　善行 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	
授業種別／Type of class	
時間割コード／Registration Code	M402150
ナンバリング／Numbering ※試行中	9999999F
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　前期／First semester
開講曜日　時限／Class period	水／Wed　1 , 水／Wed　2
単位数／Credits	2
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	小野瀬　善行(瓦井 千尋(kawarai@cc.utsunomiya-u.ac.jp 028(649)5271))
オフィスアワー／Office hours	小野瀬　善行(瓦井 千尋(毎授業後(水)、教職センター室内において(10:30～11:00)))

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/17
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	・講座の前半は、学校の管理運営の実状について説明や演習・協議を通して学ぶ。教材には、教職員の不祥事の事例を教育判例から取り上げ、その背景や要因を分析・検証したり、個人情報の漏洩事案（例）を想定した保護者や報道機関等への対応の仕方などをシミュレーションしたりしながら、学校の危機管理の基本を明らかにしていく。 ・後半は、学校組織マネジメントの概論と手法について学び、具体的な学校経営ビジョンづくり（演習）を通して学校運営の改善策を追求していく。
授業の到達目標 ／Course Goals	（現職院生） ・学校の危機管理におけるリスクマネジメントとクライシスマネジメントの重要性を認識することができる。具体的な教職員の不祥事や情報管理の判例を考察することで合意形成や組織としての対応、対外的な処理の仕方などを身に着けることができる。 ・学校組織マネジメントの知識・知見を活用し、学校経営ビジョンを策定するなど学校が抱える様々な課題に適切に対処し、業務・組織の見直し・改善や教員の育成ポイントを示唆する手がかりを得るなどミドルリーダーとして学校運営の改善に寄与することができる。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	・本科目は「学校改革力」の育成をめざした現職院生対象の選択科目である。
前提とする知識 ／Prerequisites	・特になし。
関連科目 ／Related Courses	・共通科目では、「学校改革の実際と課題」「現代教師論」と関連がある。 ・選択科目では、「学校評価の開発実践」と関連がある。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	（授業の方法） ・概論の説明や法規演習後の解説などは主に講話形式ですすめていく。個人による判例調べや班別での事例研究、自校（又は連携校）での調査活動、学校経営のビジョンづくり並びに模擬記者会見といった演習の際には、班（個）別対応方式で指導助言に当たる。本授業は、アクティブ・ラーニングを考慮した事例研究、班別調査、ロールプレーイング等を授業の中心活動とする。 （共に学ぶ効果と手だて） ・現職院生のみのため、授業の場面においては学卒院生と共に学び合う機会はないが、日々の相互交流の機会などを積極的に利用し、本授業の内容等を話題とした情報交換を相互に勧めていく。 ・なお、学卒院生が特に受講を希望する場合は、班編制などを工夫し、現職院生から助言等を得ながら学修できるよう環境作りに配慮していく。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	（学校の管理運営について） １．はじめに、授業全体の概要とねらい、進め方等を確認するとともに、受講者各自の本授業に対する期待やねらい等を確認する。導入として、わが国の学校教育の特徴や学校教育が抱える様々な課題等について、特に、学校の管理運営の観点を中心に、率直に意見を出し合い次時以降の下地とする。 ２～３．前時に出された見解などを踏まえながら、「適切な学校管理運営とは何か」、ということについて、戦前と戦後の教育に関する制度や事務を対比したり、地方自治と民主主義の理念を確認したりしていく。併せて、組織の構成員の果たすべき役割について、特に、ミドルリーダー的な教員等の役割について省察しながら検証・検討し合っていく。 ４．学校のステークホルダーである教育委員会（新制度も含め）、保護者・地域社会との関係は、学校の管理運営にどのような影響を及ぼしているのか、国の動向や各地域の現況を踏まえながら、その影響度合いを明らかにし、今後の望ましい関係づくりの方向性を見出していく。 ５～６．適切な学校の管理運営を図っていく上で、スクール・コンプライアンスの観点から、代表的な教育法規の基礎的知識を修得するとともに、教職員の不祥事や情報管理に係る判例等の事例をもとに演習を通して相互に検討・検証しながら、学校の管理運営に係る実際的な問題について考察していく。 ７～８．前時を受けて、リスクマネジメントとクライシスマネジメントに関連する事例を集め、ロールプレーイング（模擬記者会見等）を取り入れながら、相互に検討・検証を行い、学校における平常時の危機管理と緊急時における危機管理の在り方を体験的に学んでいく。 （学校の組織マネジメントについて） ９．学校経営をめぐる今日的な課題に対し、学校組織マネジメントの必要性及びその概要と手法について講義と演習を通して学んでいく。 １０～１１．次に、ＳＷＯＴ分析により学校を取り巻く内外の環境を把握・分析し、自校

	（又は連携校）の特色ある学校づくりに向けた課題整理と実効策を検討する。続いて、自校（又は連携校）の役割とミッションを探索する。なお、以上の内容については、自校（又は連携校）に出向き、当該校の担当職員と連絡調整をしながら進めるものとする。 １２～１３．前時を受けて、自校の具体的な学校経営ビジョンを策定する。併せて、それらを確実に展開するためのコミュニケーションスキルや人材育成の手法、校務分掌の見直しの視点などを検討・検証し合う。 １４．前時までに作成したそれぞれの学校経営のビジョンについて、グループごとに発表し合い、相互に成果を学び合う。発表した内容については、それぞれの学校のビジョン策定に役立てていただくよう後日、当該校に提供する。 １５．これまでの授業全体を振り返って、自分の中に「適切な学校の管理運営について」のイメージが構築できたか、併せて、そのイメージに沿った学校運営が出来るようにするために、自校（又は連携校）が抱える様々な教育課題の一つに対応できるような方策等を見出すことができたかどうか、さらには、自分が当該校の学校運営の中核（ミドルリーダー）となって活躍できる存在となるためにはどういったことを身に着ける必要があるか、等をレポートにまとめる。また、授業構成や授業の展開方法、テーマの取り上げ方などについて率直な意見を述べてもらい、次回の授業改善に役立てる。
教科書・参考書等 ／Textbooks	１）栃木県教育関係職員必携28（栃木県教育委員会編第一法規） ２）第五次全訂新学校管理読本（学校管理運営法令研究会編著第一法規） ３）教職員服務関係実務ハンドブック（教職員法令研究会編ぎょうせい） ４）判例Ｑ＆Ａ教職員の法知識1～3（教育判例研究会編ぎょうせい） ５）人事判定による教職員法律問題質疑応答集１～２（教育判例研究会編ぎょうせい） ６）最新学校管理規則質疑応答集（教育法規研究会編ぎょうせい） ７）ザ☆特集No.37〈管理職演習〉学校防災・危機管理の最新法律問題（菱村幸彦編教育開発研究所） ８） DVDスクールコンプライアンス第1～3巻日本経済新聞出版社 など ９）教員の資質能力の向上に関する各種答申等 10）「組織マネジメント研修テキスト」（独法：教員研修センター「教職員等中央研修講座」配付資料） ほか
成績評価の方法 ／Evaluation	・毎時の授業記録の提出物・研究協議後の省察レポート、演習及び研究協議での発言・発表等のパフォーマンスを総合的に判断して評価する。
学習上の助言 ／Learning Advice	・演習で扱う題材事例については、批評家的・評論家的な姿勢で取り組むのではなく、「明日は我が身」という緊迫感や切実感、やり甲斐感を持って、より良いミドルリーダーを目指し主体的に取り組んで欲しい。
キーワード ／Keywords	・学校の組織マネジメント、学校の自律性、ミドルリーダー、学校の危機管理、スクール・コンプライアンス、リスク・マネジメント、クライシスマネジメント

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	授業実践基礎／Basic Learning for Teaching Practice
代表教員名／Instructor	青柳　宏 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	青柳 宏，人見久城，日野圭子，松本 敏（以上，教育学部），平塚昭仁（附属小学校），高久由紀子（附属中学校）
授業種別／Type of class	
時間割コード／Registration Code	M402210
ナンバリング／Numbering ※試行中	9999999F
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　前期／First semester
開講曜日　時限／Class period	水／Wed　1 , 水／Wed　2
単位数／Credits	2
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	
オフィスアワー／Office hours	

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/17
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	8回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	授業参観の視点を整理した上で、附属学校で授業参観をする。授業者および大学教員と共に、授業参観の気づきを交流や授業改善のための協議を行う。教科を選択し、専門の教員の指導の下、指導案の作成と模擬授業を行う。更に、現職教員の講話を聴くことで、自らの教師としての使命感・情熱及び学習指導，生徒指導への思いや工夫等を整理する。
授業の到達目標 ／Course Goals	（学卒院生） 授業参観から、授業観察の視点を身に付けることができる。 授業研究会の参加を通して、授業改善の方法を理解する。 指導案作成と模擬授業を通して、授業を構成する力を身に付ける。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	選択科目(学卒院生は必修)である。 主に、授業力を育てることをねらいとする科目である。
前提とする知識 ／Prerequisites	共通科目「教材開発と教育方法の実践と課題」「授業研究の運営と課題」では、確かな学力・創造的な学力を保障する教材開発と教育方法や授業研究の方法を学ぶ。「学級経営の実践と課題」では，児童生徒との人間関係構築のための学級経営の方法について学ぶ。
関連科目 ／Related Courses	共通科目「教材開発と教育方法の実践と課題」「授業研究の運営と課題」では、確かな学力・創造的な学力を保障する教材開発と教育方法や授業研究の方法を学ぶ。「学級経営の実践と課題」では，児童生徒との人間関係構築のための学級経営の方法について学ぶ。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	複数教員によるオムニバスおよび共同方式で進める。高度な実践力を身に付けるために、小中学校の授業への直接参観、授業研究会での議論、指導案作成と模擬授業を繰り返す。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	１，オリエンテーション 授業についての見通しをもたせ，自分の今もっている教師像や育てたい子ども像を整理，確認する。（久保田） ２，授業参観の視点 参観にふさわしい意欲や態度を養うと共に、授業参観の視点を持てるようにする。また、授業検討会の意義と方法について理解する。（松本） ３，授業作りの視点 授業作りの視点を，現職院生と共に整理する。（久保田） ４～９，附属小中学校での授業参観および研究協議 実際の授業を見ることを通して授業参観の視点を養うと共に、授業研究会に参加することで、授業改善の力を身につける。（全員） １０～１４，指導案の作成および模擬授業 国語、算数・数学、理科、社会、英語の中から教科を１つ選び、担当教員の指導の下、指導案の作成と模擬授業を行う。（青柳、久保田、松本、人見、日野） １５，まとめ 現職教員から教師としての使命感・情熱及び学習指導，生徒指導への思いや工夫等について講演を聴き，現在の自分を振り返る。（全員）
教科書・参考書等 ／Textbooks	テキストは当日紹介する。
成績評価の方法 ／Evaluation	毎時間のミニレポート、指導案、授業への参加態度等を総合的に判断する。
学習上の助言 ／Learning Advice	学卒院生は必修の科目です。
キーワード ／Keywords	学習指導案、模擬授業

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	授業実践基礎（特別支援）
代表教員名／Instructor	岡澤　慎一 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	岡澤　慎一（教育学部）
授業種別／Type of class	演習
時間割コード／Registration Code	M402221
ナンバリング／Numbering ※試行中	9999999F
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　前期／First semester
開講曜日　時限／Class period	水／Wed　1 , 水／Wed　2
単位数／Credits	2
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	岡澤　慎一(岡澤 慎一(028-649-5350|okazawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp))
オフィスアワー／Office hours	岡澤　慎一(岡澤 慎一(月曜9:00～10:00，12:10～12:40))

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/17
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	授業参観の視点を整理した上で、附属特別支援学校で授業参観をする。授業者および大学教員と共に、授業参観の気づきを交流や授業改善のための協議を行う。また、大学教員の指導の下、指導案の作成と模擬授業を行う。更に、現職教員の講話を聴くことで、自らの教師としての使命感・情熱及び学習指導、生徒指導への思いや工夫等を整理する。
授業の到達目標 ／Course Goals	（学卒院生） 学部の実習科目で培った授業観察力および実践力を基礎とし、より高度な実践力を身につける。授業を観察する力を向上させ、児童生徒の変化から授業を改善する力を身につける。児童生徒の実態把握に基づいて授業を構成する力を向上させる。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	共通科目「教材開発と教育方法の実践と課題」「授業研究の運営と課題」「学級経営の実践と課題」「特別支援教育の実践と課題」と関連する。
前提とする知識 ／Prerequisites	共通科目「教材開発と教育方法の実践と課題」「授業研究の運営と課題」「学級経営の実践と課題」「特別支援教育の実践と課題」と関連する。
関連科目 ／Related Courses	共通科目「教材開発と教育方法の実践と課題」「授業研究の運営と課題」「学級経営の実践と課題」「特別支援教育の実践と課題」と関連する。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	複数教員による共同方式で進める。高度な実践力を身に付けるために、特別支援学校の授業への直接参観、授業研究会での議論、指導案作成と模擬授業を繰り返す。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	１　オリエンテーション。自分の今もっている教師像や育てたい子ども像を整理，確認する。 ２　授業参観の視点の整理。参観にふさわしい意欲や態度を養うと共に，授業参観の視点を持てるようにする。また、授業検討会の意義と方法について理解する。 ３　附属特別支援学校（小学部）での授業参観および研究協議（１） ４　附属特別支援学校（小学部）での授業参観および研究協議（２） ５　附属特別支援学校（中学部）での授業参観および研究協議（１） ６　附属特別支援学校（中学部）での授業参観および研究協議（２） ７　附属特別支援学校（高等部）での授業参観および研究協議（１） ８　附属特別支援学校（高等部）での授業参観および研究協議（２） ９　指導案の作成および模擬授業（1回目）（１） １０　指導案の作成および模擬授業（1回目）（２） １１　指導案の作成および模擬授業（1回目）（３） １２　指導案の作成および模擬授業（2回目）（１） １３　指導案の作成および模擬授業（2回目）（２） １４　指導案の作成および模擬授業（2回目）（３） １５　現職教員から教師としての使命感・情熱及び学習指導，生徒指導への思いや工夫等について講演を聴き，現在の自分を振り返る。
教科書・参考書等 ／Textbooks	『特別支援学校―幼稚部教育要領/小学部・中学部学習指導要領/高等部学習指導要領』 『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚部・小学部・中学部)』 『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(高等部)』 『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部・高等部)』
成績評価の方法 ／Evaluation	毎時間のミニレポート50%、指導案30%、授業への参加態度等20%
学習上の助言 ／Learning Advice	受講者一人ひとりが，自分の「問い」と授業内容とを結びつけながら参加していただければと思います。

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	集団作り論／Theory to Build a Classroom
代表教員名／Instructor	菊地　高夫 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	小野瀬善行、石嶋和夫、皆川美弥子
授業種別／Type of class	
時間割コード／Registration Code	M402110
ナンバリング／Numbering ※試行中	9999999F
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　前期／First semester
開講曜日　時限／Class period	水／Wed　3 , 水／Wed　4
単位数／Credits	2
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	
オフィスアワー／Office hours	

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/17
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	児童・生徒の自己肯定感（自己有用感）や自治の力を育む学校における様々な取組を集団づくりとして意識化し、その教育的意味と具体的な実践手法を学ぶことを目的とする。具体的には、教育実践史から紡ぎ出す集団づくり理論に触れるとともに、集団づくりにおける今日的課題を明らかにし、多様な実践事例を手がかりに授業を展開する。参加型の学びを基本にするため、授業参観・授業研究、ロールプレイ、シミュレーション等を通して実践的に学ぶ。
授業の到達目標 ／Course Goals	（学卒院生） 学級集団の現状と課題を学校改善の観点および現代社会との関わりから理解することができる。 学級における集団づくりの方法を身につけることができる。 学級の現状分析の方法を身に付けることができる。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	選択科目（学卒院生は必修）である。 主に学校改革力を育てることをねらいとする科目である。
前提とする知識 ／Prerequisites	教育職員免許状取得の過程で手に入れた集団づくりに関する知識・技能を前提としている。
関連科目 ／Related Courses	共通科目「学級経営の実践と課題」では、学級経営の内容、役割、実践上の課題の理解や、年間を通しての学級経営の計画等を学ぶ。本科目は、学級経営の中から「集団づくり」を取り上げ、その理論と方法の詳細を学ぶ。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義を聴くだけでなく、授業参観・授業研究・ロールプレイ・シミュレーション等を通して、実践的に学ぶ。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	１．集団づくりの授業計画を概観し、科目の趣旨や授業方法を理解する。（オリエンテーション） ２．集団づくりにおける課題を顕在化させるために、集団づくりに関するウェビングを行う。 ３．集団づくり理論の歴史的経緯と今日的課題について学ぶ。① ４．集団づくり理論の歴史的経緯と今日的課題について学ぶ。② ５．集団づくり理論の歴史的経緯と今日的課題について学ぶ。③ ６．学業指導の理論について学ぶ。 ７．学業指導の具体的な手立てについて考える。 ８．附属小学校における特別活動の授業を参観する。 ９．附属小学校における集団づくりの取組について学ぶ。 １０．集団づくりの技法について学ぶ。①（ソーシャルスキルトレーニング、グループエンカウンター等々） １１．集団づくりの技法について学ぶ。②（ソーシャルスキルトレーニング、グループエンカウンター等々） １２．集団づくりの技法について学ぶ。③（ソーシャルスキルトレーニング、グループエンカウンター等々） １３．Q-Uテスト等を例に挙げ、評価内容と結果の分析方法を理解する。（評価の特質と分析方法を含めた具体的な手法について学ぶ。） １４．教職員集団の組織マネジメントについて、集団づくり論の視点から理解する。（児童生徒の集団づくりとの関連についても言及する。） １５．児童生徒及び教職員の集団づくりについて総括する。（組織マネジメント全般を視野に入れた総括を行う。）
教科書・参考書等 ／Textbooks	テキストは随時紹介する。
成績評価の方法 ／Evaluation	ミニレポート、授業への参加態度、研究協議での発言等のパフォーマンスを総合的に判断して評価する。
学習上の助言 ／Learning Advice	学卒院生は必修科目です。

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	言語活動を軸にした教育内容・方法論／Educational Contents and Methodology Centered on the Language Practice
代表教員名／Instructor	青柳　宏 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	
授業種別／Type of class	
時間割コード／Registration Code	M402230
ナンバリング／Numbering ※試行中	9999999F
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　前期／First semester
開講曜日　時限／Class period	水／Wed　5 , 水／Wed　6
単位数／Credits	2
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	
オフィスアワー／Office hours	

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/17
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	特に人文系の科目において（また、「総合的な学習の時間」、「道徳」等において）、「言語活動の充実」をどのように理解し、構想し、実践、省察するのかについて事例分析を中心に検討を行う。教科の枠にとらわれず、「詩を書くこと」、「対話すること」、「物語ること」をキーワードに、様々な実践事例を検討する。また、授業の中で、実際に「詩を書くこと」、「対話すること」、「物語ること」に関わる実践（模擬授業）を行う。
授業の到達目標 ／Course Goals	（現職院生） 自らの現場での言語活動を軸にした実践を省察し、どのような点に課題があるのかを理解した上で新た実践を構想していく技能を習得する。 （学卒院生） 「言語活動」の中核をなす「対話」の意義について理解し、様々な教育内容に関わる対話的実践を構想できるようにする。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	三つの力の内、特に「授業力」、また「学校改革力」に資する。
前提とする知識 ／Prerequisites	学部段階での「教育方法論」等で習得される知識を前提とする。
関連科目 ／Related Courses	共通科目では「カリキュラム開発の実践と課題」と関連があります。 選択科目では「授業実践基礎論」「道徳授業デザイン論」と関連があります。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	まずテキスト（鈴木和夫『子どもとつくる対話の教育』他）に描かれたいくつかの実践についてグループに分かれて検討を繰り返した後、それぞれのグループごとに実践を構想し模擬授業を（全体に対して）おこなう。そして、模擬授業についての省察を全体で行う。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	１．　テキスト（鈴木和夫『子どもとつくる対話の教育』）の検討（その一）＊グループに分かれ、テキストに描かれた実践を検討する。 ２．　テキスト（鈴木和夫『子どもとつくる対話の教育』）の検討（その二）＊グループに分かれ、テキストに描かれた実践を検討する。 ３．　テキスト（鈴木和夫『子どもとつくる対話の教育』）の検討（その三）＊グループに分かれ、テキストに描かれた実践を検討する。 ４．　テキスト（谷川俊太郎他『ことばが生きる子どもが生きる詩の授業』）の検討（その四）＊グループに分かれ、テキストに描かれた実践を検討する。 ５．　テキスト（谷川俊太郎他『ことばが生きる子どもが生きる詩の授業』）の検討（その五）＊グループに分かれ、テキストに描かれた実践を検討する。 ６．　テキスト（坂本忠芳他『フレネ教育：表現する教室』）の検討（その六）＊グループに分かれ、テキストに描かれた実践を検討する。 ７．　テキスト（坂本忠芳他『フレネ教育：表現する教室』）の検討（その七）＊グループに分かれ、テキストに描かれた実践を検討する。 ８．　模擬授業（「対話すること」をキーワードにした模擬授業）（その一）　＊第１グループによる模擬授業と全体での検討（省察） ９．　模擬授業（「対話すること」をキーワードにした模擬授業）（その二）　＊第２グループによる模擬授業と全体での検討（省察） １０．模擬授業（「対話すること」をキーワードにした模擬授業）（その三）　＊第３グループによる模擬授業と全体での検討（省察） １１．模擬授業（「対話すること」をキーワードにした模擬授業）（その四）　＊第４グループによる模擬授業と全体での検討（省察） １２．模擬授業（「詩を書くこと」をキーワードにした模擬授業）（その五）　＊第５グループによる模擬授業と全体での検討（省察） １３．模擬授業（「詩を書くこと」をキーワードにした模擬授業）（その六）　＊第６グループによる模擬授業と全体での検討（省察） １４．模擬授業（「詩を書くこと」をキーワードにした模擬授業）（その七）　＊第７グループによる模擬授業と全体での検討（省察） １５．授業のまとめ
教科書・参考書等 ／Textbooks	鈴木和夫『子どもとつくる対話の教育』山吹書店、２００５年 谷川俊太郎他『ことばが生きる子どもが生きる詩の授業』国土社、１９８９年 坂本忠芳他『フレネ教育：表現する教室』青木書店、２０００年

成績評価の方法 ／Evaluation	討論中の発言、模擬授業及び検討会でのパフォーマンス・発言を総合的に判断して評価する。
学習上の助言 ／Learning Advice	例えば「詩を書くこと」を、文学的な表現としてだけでなく、物事を認識するためのツール（道具）として新たに捉え直して欲しい。

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	特別な支援が必要な子どもへの理解と対応／Understanding and support for children with special needs
代表教員名／Instructor	司城　紀代美 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	
授業種別／Type of class	
時間割コード／Registration Code	M402330
ナンバリング／Numbering ※試行中	9999999F
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　前期／First semester
開講曜日　時限／Class period	水／Wed　7 , 水／Wed　8
単位数／Credits	2
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	司城　紀代美(司城 紀代美(shijo@cc.utsunomiya-u.ac.jp))
オフィスアワー／Office hours	司城　紀代美(司城 紀代美(前期：水曜16:00～17:00，後期：金曜17:00～18:00 その他メールにて問い合わせてください。))

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/17
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	通常の学級において特別な支援が必要とされる子どもの理解のしかたおよび支援方法について検討する。ビデオ映像を用いた観察記録の作成方法，エピソードの分析方法などの演習を行い，多角的な子ども理解の視点を身につけた上で，現職院生の実践に基づく事例検討を行う。一連の学習を通して，具体的な個々の子どもの姿から支援方法を構築する過程を参加者が共有し，支援のための教師の思考の道筋，同僚や保護者との協働のあり方について探求する。
授業の到達目標 ／Course Goals	（現職院生） 支援が必要な子どもたちニーズを多角的にとらえる視点を獲得する。 同僚と協働し，子どもたちの具体的な姿から支援方法を構築するための方法論を習得する。 （学卒院生） 通常の学級における特別支援教育の課題を理解する。 協働的に支援方法を構築する方法論の基礎を習得する。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	選択科目。 主に，「個への対応力」を育てることをねらいとする科目である。
前提とする知識 ／Prerequisites	共通科目では、「「生徒指導の実践と課題」と関連があります。 選択科目では、「授業における個のとらえ方と対応」「特別な支援が必要な子どもへの理解と対応」「障害が重い子どもへの教育の在り方」と関連します。
関連科目 ／Related Courses	共通科目では、「「生徒指導の実践と課題」と関連があります。 選択科目では、「授業における個のとらえ方と対応」「特別な支援が必要な子どもへの理解と対応」「障害が重い子どもへの教育の在り方」と関連します。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	（授業の方法） 授業者による講義のほかに，観察記録の作成やエピソード記録の分析などの演習，受講者全体あるいは少人数による討論を行う。 演習においては，支援が必要な子どもを詳細にとらえるためのエスノグラフィーの手法，実践に即した支援方法の構築につながるアクションリサーチなど，教育学・心理学の質的研究法を活用する。事例検討では，現職院生の具体的な経験を取り上げ，複雑な問題に対してどのように対応するかを検討する。一つの事例についてじっくりと検討する過程を体験するため，一事例に対する検討時間を十分にとる。 （共に学ぶ効果と手だて） 観察記録の作成やエピソードの分析は，子どもの発達や特別支援教育に対する自分自身の考え方を振り返ることにつながる。現職院生，学卒院生ともに，多様な他者の記録や分析に触れることで，自分の思考や子どものとらえ方の特徴に気づき，より多角的な視点をもつことができると考えられる。 事例検討においては，現職院生は自分の実践の中から事例を選び，資料を作成したり，子どもについて語ったりすることで，自分の実践を省察するができ，学卒院生は，現職院生の実践に触れることで，より具体的で複雑な支援の過程について考えることができる。両者がともに支援方法について検討することで，学校現場で経験の異なる教員同士が協議するための手立てについて考察することが可能になる。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	１．イントロダクション。授業の目的，進め方等について確認する。 ２．発達障害や特別な支援が必要な子どもについての文献をもとに，障害や支援のとらえ方について検討する。 ３．知能検査等のアセスメント方法について講義および演習を行う。 ４．子ども理解の方法としての質的研究法について講義および演習を行う。 ５．ビデオ視聴により，子どもの行動観察の手法について演習を行う。 ６．エピソードをもとにした子ども理解の手法について演習を行う。 ７．アクションリサーチの手法について理解し，支援計画の立て方について演習を行う。 ８．受講者による事例を受講者全員で検討する。 ９．受講者による事例を受講者全員で検討する。 １０．受講者による事例を受講者全員で検討する。 １１．受講者による事例を受講者全員で検討する。 １２．受講者による事例を受講者全員で検討する。 １３．受講者による事例を受講者全員で検討する。

	１４．これまでの討論について振り返り，支援計画を立てる過程について考察する。 １５．各自が授業を踏まえて支援方法の構築過程について分析し，レポートとしてまとめたものを報告し合う。
教科書・参考書等 ／Textbooks	（参考書） 秋田・恒吉・佐藤編『教育研究のメソドロジー―学校参加型マインドへのいざない―』東京大学出版会，2005. 柴山真琴著『子どもエスノグラフィー入門―技法の基礎から活用まで―』新曜社，2006. 秋田喜代美編『教師の言葉とコミュニケーション―教室の言葉から授業の質を高めるために―』教育開発研究所，2010.
成績評価の方法 ／Evaluation	演習後の提出物，討論でのパフォーマンス，最終レポートを総合的に判断して評価する。
学習上の助言 ／Learning Advice	受講者一人ひとりが，自分の「問い」と授業内容とを結びつけながら参加していただければと思います。

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	社会科授業デザイン論
代表教員名／Instructor	松本　敏 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	
授業種別／Type of class	
時間割コード／Registration Code	M402260
ナンバリング／Numbering ※試行中	9999999F
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　前期／First semester
開講曜日　時限／Class period	木／Thu　1 , 木／Thu　2
単位数／Credits	2
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	松本　敏(松本 敏(satoshim@cc.utsunomiya-u.ac.jp))
オフィスアワー／Office hours	松本　敏(松本 敏(月曜日12時～12時30分，火曜日10時30分～12時30分))

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/17
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	小学校社会科（院生の状況によっては中学校社会科，高等学校地理歴史科，公民科も含む）の授業において、思考力・判断力・表現力を育成する社会科の授業をいかに組み立てれば良いか。初めに総論的な講義を行い，これまでの実践史から典型的な実践例を検討して、授業デザインの在り方を考える。その後は授業の具体例を持ち寄って議論する。現職院生を中心に自らが行った社会科授業の指導案、授業記録、授業ビデオなどを提供して検討する。小学校を中心とした科目であるが連続性を踏まえ中学校の内容にも触れる。
授業の到達目標 ／Course Goals	（現職院生） 自らのこれまでの社会科授業の実践をまとめ、省察し、他の授業デザインと比較して論ずることができる。 思考力・判断力・表現力を高める社会科の授業デザインを具体的に構想できる。 （学卒院生） 社会科における思考力・判断力・表現力の育成方策について、基本的な理論が分かる。 思考力・判断力・表現力を育成する授業を組み立てることができる。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	「3つの力」のうち「授業力」に関わる選択科目である。
前提とする知識 ／Prerequisites	社会科，公民科，地理歴史科の授業を行ったことがあること。
関連科目 ／Related Courses	共通科目では、「カリキュラム開発の実践と課題」「教材開発と教育方法の実践と課題」と関連があります。 選択科目では、「授業基礎論」などと関連します。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	（授業の方法） 最初の５回は、議論を含む講義中心で行う。具体的な授業プランや実践例を基に考察する。 ６回目以降は、受講生の実践した社会科授業とその改善策について、討論を中心に行う。 （共に学ぶ効果と手だて） 現職院生は授業を数多く経験しているのに対し、学卒院生は学部での教育実習など限定的なものしか経験していない。このような差のある集団で、社会科の実際の授業を取り上げ、それに基づいて議論を行う。 学卒院生は学部段階で受けた初等ないし中等の社会科教育法の授業を振り返り、現職院生が経験に基づいて自らの授業を説明するのを聞いて、自分の知識と経験が当てはまるところを教員の指示に応じて確認する。その上で、現実の授業の多様性に気づき、言語化できるようになる。 現職院生は、学卒院生に当初範を示すだけに見えるかもしれないが、自らの実践を学卒院生にも分かるように説明できなければならないので、自らの授業をより深く考察することになる。多くの実践が出されることにより、異なる視点や考え方から自らの実践について省察的に学び直す。これは、現場に戻ったときに、他の授業をデザインするときや若手を指導するときに役立つ。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	１．授業の趣旨、進め方について説明する。 日本における社会科授業論の歴史（１）戦前の社会科的諸教科の内容と教育方法について、国定教科書や教師用書を学生と具体的に吟味・議論しながら講義する。 ２．社会科授業論の歴史（２）戦後初期社会科の内容と教育方法について、初期の学習指導要領や各地のプランを学生と具体的に吟味・議論しながら講義する。 ３．社会科授業論の歴史（３）1960年代の様々な社会科論について、発見学習、検証学習などの具体例を学生と吟味・議論しながら講義する。 ４．社会科授業論の歴史（４）平成期に入ってからの社会科の授業について個別化・個性化、討論（話し合い）学習などの具体例を学生と吟味・議論しながら講義する。 ５．社会科授業論の歴史（５）思考力・判断力・表現力の育成が特に求められる現代の社会科授業について、典型例をいくつか示しながら、特に社会科で育成すべき力について、学生と議論しながら講義する。 ６．現職院生の授業発表（１）実践例を提示する（指導計画，授業記録，ビデオや録音，児童・生徒のワークシートなど）。思考力・判断力・表現力の育成のために意識して行ったところを中心に、発表する。学卒院生には、次時の議論に必要な基本事項の確認をする（分からない場合は宿題とする）。 ７．現職院生の授業発表（１）に対する議論 前時の発表についてそれぞれが考えてきたことを持ち寄り（レジュメ用意）、その授業の特色について討論する。学卒院生には、最初に

	基本事項の確認をして、議論に加わらせる。 ８．現職院生の授業発表（２）実践例を提示する（指導計画，授業記録，ビデオや録音，児童・生徒のワークシートなど）。思考力・判断力・表現力の育成のために意識して行ったところを中心に、発表する。学卒院生には、次時の議論に必要な基本事項の確認をする（分からない場合は宿題とする）。 ９．現職院生の授業発表（２）に対する議論 前時の発表についてそれぞれが考えてきたことを持ち寄り（レジュメ用意）、その授業の特色について討論する。学卒院生には、最初に基本事項の確認をして、議論に加わらせる。 10．現職院生の授業発表（３）実践例を提示する（指導計画，授業記録，ビデオや録音，児童・生徒のワークシートなど）。思考力・判断力・表現力の育成のために意識して行ったところを中心に、発表する。学卒院生には、次時の議論に必要な基本事項の確認をする（分からない場合は宿題とする）。 11．現職院生の授業発表（３）に対する議論 前時の発表についてそれぞれが考えてきたことを持ち寄り（レジュメ用意）、その授業の特色について討論する。学卒院生には、最初に基本事項の確認をして、議論に加わらせる。 12．学卒院生の授業構想（１）これまでの学習を踏まえ、学卒院生が、思考力・判断力・表現力を育成する授業の構想を発表する。これについて、全体で議論し、生かしたい点や改善すべき点について、発表者がまとめる。 13．学卒院生の授業構想（２）これまでの学習を踏まえ、学卒院生が、思考力・判断力・表現力を育成する授業の構想を発表する。これについて、全体で議論し、生かしたい点や改善すべき点について、発表者がまとめる。 14．学卒院生の授業構想（３）これまでの学習を踏まえ、学卒院生が、思考力・判断力・表現力を育成する授業の構想を発表する。これについて、全体で議論し、生かしたい点や改善すべき点について、発表者がまとめる。 15．全体を振り返り、社会科で育成すべき思考力・判断力・表現力の内容と、効果的に育成するための授業デザインの在り方について議論し、最終レポートにまとめる。
教科書・参考書等 ／Textbooks	日本社会科教育学会編『新版 社会科教育事典』ぎょうせい，2012年. 小原友行編著『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン 小学校編』明治図書，2009年. 小原友行編著『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン 中学校編』明治図書，2009年. ほかにプリントを適宜配布する。
成績評価の方法 ／Evaluation	授業記録の提出物・研究協議後の省察レポート、研究協議での発言等のパフォーマンス、最終レポートを総合的に判断して評価する。
学習上の助言 ／Learning Advice	単元、教材に即して、具体的に論じることが重要です。
キーワード ／Keywords	社会科，公民科，地理歴史科，教育内容，教育方法，思考力・判断力・表現力

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	現代教師論
代表教員名／Instructor	小野瀬　善行 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	(未定)、司城紀代美
授業種別／Type of class	
時間割コード／Registration Code	M401520
ナンバリング／Numbering ※試行中	9999999F
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　前期／First semester
開講曜日　時限／Class period	木／Thu　5 , 木／Thu　6
単位数／Credits	2
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	小野瀬　善行(瓦井 千尋(kawarai@cc.utsunomiya-u.ac.jp 028(649)5271))
オフィスアワー／Office hours	小野瀬　善行(瓦井 千尋(毎授業後(水)、教職センター室内において(10:30～11:00)))

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/17
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	教師の力量形成とそれを支える諸制度について多角的に検討していく。まず、教員の地位や専門職としての教員の役割期待の変遷を政策的に跡づけ、現代の教師の社会的役割を明確にした上で、教師の力量形成の実態と課題を教員養成と現職教育の両面から明らかにする（小野瀬善行）。次に、具体的な教師の学びに焦点をあて、教師が日々の実践や授業研究の中から実践的知識を構築していく過程を心理学的視点から明らかにする。（司城紀代美）。さらに、教員評価の観点から教師の力量形成の実態と課題を考察する（未定）。
授業の到達目標 ／Course Goals	（現職院生） 自らの教師としての成長を振り返り、キャリア形成に積極的に取り組む意欲を持つことができる。 教師全体の力量形成の方法と学校内での組織化についての考え方と方法論を習得する。 （学卒院生） 学部段階で身に付けた自らの教師としての力量を客観的に把握することができる。 専門職としての教師の役割を理解し、今後のキャリアパスを見通して力量形成を図っていく方法を理解する。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	主に、「学校改革力」を育てることをねらいとする科目である。
前提とする知識 ／Prerequisites	共通科目における「カリキュラム開発の実践と課題」「授業研究の運営と課題」「学校改革の実際と課題」、選択科目における「学校評価の開発実践」「授業基礎論」で学習する知識と関連を有する。
関連科目 ／Related Courses	共通科目では、「カリキュラム開発の実践と課題」「授業研究の運営と課題」「学校改革の実際と課題」と関連する。選択科目では、「学校評価の開発実践」「授業基礎論」と関連する。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	（授業の方法） ３人の教員の専門領域に従って講義及び演習を進め、一部共同で行う。現職院生は、自分のキャリア形成を振り返り今後の成長の見通しを持つための演習を、学卒院生は、学部段階で身に付けた自らの資質能力を「学びの軌跡」（履修カルテ）を用いて確認する演習をワークショップ方式で行う。また、教師が実践から協働的に学ぶ過程を体験的に検証するため、現職院生、学卒院生が共に視聴した授業ビデオや事例について討論する演習を行う。 （共に学ぶ効果と手だて） 教師としての経験の無い学卒院生にとって、現職院生ライフヒストリーは生きた教材となる。現職教員にとって、学卒院生が抱く教師像や教職への期待は、そのまま自らの教職生活を客観視する契機となる。こうした経験の有無による違いを超えて両者が共に現在の教師の資質に対する強い期待と現状、課題を学ぶことで、キャリアに応じた力量形成の方法とそれを学校を拠点に形成していく際の視点が多角的になる。授業では両者の語り合いを大切にしていきたい。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1回 オリエンテーション（小野瀬・司城・未定） 第2回 教員の資質向上に関する政策・提言などから、教員の力量形成をめぐる課題と方策を具体的に明らかにしていく。（小野瀬） 第3回 教師の仕事についての考え方、実態に関する研究論文について検討し、現在の日本の教師が直面している困難や課題を明らかにする。（小野瀬） 第4回 OECD国際教員調査を元に、教員の勤務環境について実践的に考察し、その改善に向けた方略を多面的に検討する。（小野瀬） 第5回 教師としての成長（現職院生）、現時点での資質能力の確認（学卒院生）の演習を行い、教職の意味の再確認を行う。（小野瀬・司城・未定） 第6回 Ｄ．ショーンによる「反省的実践家」という視点から教師の専門性についてとらえ直す。（司城） 第7回 教師の学びに関する研究論文について検討し、教師が実践や授業研究を通して学ぶ過程を明らかにする。（司城） 第8回 教師の学びに関する現代的課題を整理し、グループごとに探求したいテーマに沿って検討を行う。（司城） 第9回 グループごとの検討結果を報告し、実践からの学びの過程について全体討議を行う。（司城） 第10回 授業の内容と自分自身のこれまでの実践を関連させながら振り返り、教師の学びについて考察を行う。（司城・未定・小野瀬） 第11回 教員評価制度の概要（目標管理と業績評価）とその意義について、制度導入の経緯

	や背景、企業の評価制度や諸外国の制度などを対比しながら考察していく。（未定） 第12回 教員評価の実際について、現在利用されている教員評価制度の実例を基に自己目標の設定を試みる。（未定） 第13回 面談時の評価者と被評価者役をロールプレイしながら、教員評価が学校の教育活動や教員の職能発達、人事異動に及ぼす影響について考察していく。（未定） 第14回 教員評価が学校の諸活動全体の改善と教員の資質能力の向上とに資する具体的な方策を析出できる手段として位置づけられるか、併せて、教員評価の本義と指導不適切（不適格）教員排除との関連性を考察していく。（未定） 第15回 これまでを振り返って、自らの今後の教師の力量形成の在り方についてレポートをまとめ，小グループで意見交換をする。（小野瀬・司城・未定）
教科書・参考書等 ／Textbooks	（参考書） 小島弘道他編『教師の条件―授業と学校をつくる力―』学文社．2008. アンディ・ハーグリー?ブズ著, 秋田喜代美監訳,木村優・篠原岳司 翻訳『知識社会の学校と教師: 不安定な時代における教育』金子書房, 2015. ドナルド・A・ショーン著，柳沢昌一・三輪建二監訳『省察的実践とは何か―プロフェッショナルの行為と思考―』鳳書房．2007. 秋田喜代美著『学びの心理学―授業をデザインする―（放送大学叢書）』左右社．2012. 佐藤全，若井彌一『教員の人事行政―日本と諸外国?』ぎょうせい．1992. 佐藤全，坂本孝徳編著『教員に求められる力量と評価（日本と諸外国）』東洋館出版．1996.
成績評価の方法 ／Evaluation	授業への参加態度、研究協議での発言等のパフォーマンスを総合的に判断して評価する。
学習上の助言 ／Learning Advice	受講者一人ひとりが、自分の「問い」と授業内容とを結びつけながら参加していただければと思います。
キーワード ／Keywords	教員の専門性、専門職性、反省的実践家、教師の学び、教員評価制度

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	学校改革の実際と課題／Practice and Problems of School Reform
代表教員名／Instructor	小野瀬　善行 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	
授業種別／Type of class	
時間割コード／Registration Code	M401410
ナンバリング／Numbering ※試行中	9999999F
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　前期／First semester
開講曜日　時限／Class period	木／Thu　7 , 木／Thu　8
単位数／Credits	2
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	小野瀬　善行(瓦井 千尋(kawarai@cc.utsunomiya-u.ac.jp 028(649)5271))
オフィスアワー／Office hours	小野瀬　善行(瓦井 千尋(毎授業後(水)、教職センター室内において(10:30～11:00)))

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/17
ＡＬ度 ／Active Learning	AL50
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	近年の教育システムの変容に即して学校改革が求められるようになった背景と意義を認識したうえで、学校改革・改善の様々な種類とアプローチを学び、実際の学校改革事例などに即して学校改善に必要な視点と手法を獲得することを目指す。 学校の組織特性の理解のもとに、学校組織開発の観点から学校改善に必要な要素と手順をワークショップを行って探索し、これを基にPlan-Do-Check-Actionに即した具体的な改善プラン立案演習も行っていく。
授業の到達目標 ／Course Goals	（現職院生） 学校改善の推進者として、その基本的考え方と課題解決への実践的アプローチ法を習得する。マネジメント・マインドを身に付けたミドル・リーダーとしての資質能力を身につける。 （学卒院生） 学校で実際に起こっている諸問題とその解決への道筋の多様性について理解する。学校組織の一員として自覚を持ち、同僚性の重要性に気づく。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	全学生対象の必修科目。特に「学校改革力」の育成を目指す。
前提とする知識 ／Prerequisites	共通科目では、「学校教育をめぐる現代的社会状況とその対処」「現代教師論」と関連がある。選択科目の「学校評価の開発実践」は、本科目の各論にあたる。これらの科目で学習する知識を体系的に理解して、自らの実践に活かすことが望ましい。
関連科目 ／Related Courses	共通科目では、「学校教育をめぐる現代的社会状況とその対処」「現代教師論」と関連がある。 選択科目の「学校評価の開発実践」は、本科目の各論にあたる。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	（授業の方法） 専任教員が単独で担当する。講義とワークショップ、事例研究、プラン立案演習を行い、最後にプレゼンテーションを行う。 （共に学ぶ効果と手立て） 現職院生は、学校が抱える様々な課題やその解決方法について豊富な経験値を持っている。本授業で歴史や理論、また種々の解決手法、事例を学ぶことによってそれらを相対化かつ理論化し、実践知へと高めていく。学卒院生は、現職院生が語る様々な学校の実態や事例と重ね合わせながら学校改革・改善の必要性と理論を学んでいく。 後半のワークショップや演習では異なる立場の者が共に行うことで豊かな議論が展開されることを目標とする。さらに現職教員が実際の学校改善のリーダー役となる際に必要な異世代協働の体験やメンター・メンティーの疑似体験がなされることも期待される。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1回 オリエンテーション 教育改革と学校の関係 第2回 1990年代以降の教育改革の動向 第3回 学校組織の制度改革－新しい職に着目して－ 第4回 「組織」としての学校の課題と可能性 第5回 学校の組織文化の特徴 第6回 教師のエンパワーメントの重要性 第7回 学校変革のプロセス分析① 教師の自律性と協働に着目して 第8回 学校変革のプロセス分析② 地域や他の専門家との連携に着目して 第9回 学校変革のプロセス分析③ 学校運営協議会の設置に着目して 第10回 学校改善のための「システム思考」① 第11回 学校改善のための「システム思考」② 第12回 学校改善のためのスクールリーダーシップ① 第13回 学校改善のためのスクールリーダーシップ② 第14回 学校改善のためのスクールリーダーシップ③ 第15回 学びのふりかえり
教科書・参考書等 ／Textbooks	浜田博文編著『学校を変える新しい力』小学館2012年 佐古秀一編著『学校づくりの組織論』学文社 2010年 そのほかレジュメや参考文献を用意する。
成績評価の方法 ／Evaluation	討論への参加状況、ワークショップ・演習での成果物、プレゼンテーションなどを総合的に判断して評価する。
学習上の助言 ／Learning Advice	組織としての学校をエンパワメントしていくことは、日々の教育実践を充実させるためにも欠かせない。自らの経験や実践をふりかえりながら、「学校づくり」のためにどのような理

	論が唱えられてきたのか等を考察し、よりよい学校づくりのための複眼的な見方を学ぶ機会とされたい。
キーワード／Keywords	自律的学校経営

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	特別支援教育の実践と課題／Practice and Problems of Special Needs Education
代表教員名／Instructor	司城　紀代美 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	原田 浩司
授業種別／Type of class	
時間割コード／Registration Code	M401320
ナンバリング／Numbering ※試行中	9999999F
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　前期／First semester
開講曜日　時限／Class period	金／Fri　1 , 金／Fri　2
単位数／Credits	2
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	司城　紀代美(司城 紀代美(shijo@cc.utsunomiya-u.ac.jp))
オフィスアワー／Office hours	司城　紀代美(司城 紀代美(前期：水曜16:00～17:00，後期：金曜17:00～18:00 その他メールにて問い合わせてください。))

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/17
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	現代の特別支援教育をめぐる諸問題について多様な視点から検討する。教育学的視点からは，特別支援教育と学校・学級経営について取り上げ，学校現場での経験に基づき，特別支援教育の実際と課題について考察を行う（原田）。また，心理学的視点からは，子どもの発達に関する研究成果に基づき，学校現場で求められる特別支援教育について理論と実践の統合の観点から考察を行う（司城）。
授業の到達目標 ／Course Goals	（現職院生） 自分の実践を特別支援教育の視点からとらえ直す方法について理解する。 学術的な知見をもとに，学校現場で求められる特別支援教育のあり方について考察することができる。 （学卒院生） 特別支援教育の目的を理解し，支援に必要な知識や方法論を習得する。 他者の実践や事例から，特別支援教育のあり方を考察することができる。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	共通科目。 主に，「個への対応力」を育てることをねらいとする科目である。
前提とする知識 ／Prerequisites	共通科目では、「生徒指導の実践と課題」と関連があります。 選択科目では、「授業における個のとらえ方と対応」「特別な支援が必要な子どもへの理解と対応」「障害が重い子どもへの教育の在り方」と関連します。
関連科目 ／Related Courses	共通科目では、「生徒指導の実践と課題」と関連があります。 選択科目では、「授業における個のとらえ方と対応」「特別な支援が必要な子どもへの理解と対応」「障害が重い子どもへの教育の在り方」と関連します。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	（授業の方法） ２人の授業者が教育学的視点，心理学的視点からの授業を分担して行う。実務家教員は学校現場での経験，研究者教員は学術研究における最新の知見を取り入れ，受講者の特別支援教育に関する見識を深める。その後，討論を通じて教育学的視点と心理学的視点，理論と実践の結びつきを強め，学術的な知見をもとにしながら現場で求められる特別支援教育について考える力を養成する。 （共に学ぶ効果と手だて） 現職院生はこれまでに特別支援教育に関する経験を重ね，問題意識も明確であろう。したがって，自分の実践をもとにしながら，学問的な理論を理解していくことができると考えられる。これに対し，学卒院生は実践的な経験が少ないため，理論を用いることで，自分が経験していない実践を読み解くことができると考えられる。このように，現職院生と学卒院生とでは異なる方法で理論と実践を結びつけている。両者が少人数での討論においてじっくりと語り合うことで，理論と実践の結びつきはより強固なものになるといえる。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	１．授業への導入。授業の目的，進め方等について確認する。特別支援教育に対する個々の問題意識を明確にする。（原田・司城） ２．障害のとらえ方について検討し，特別支援教育をめぐる研究動向について概観する。（司城） ３．発達心理学の知見をもとに子どもの発達のとらえ方について検討する。（司城） ４．教授学習心理学の知見をもとに支援が必要な子どもの学習について検討する。（司城） ５．心理学における社会文化的アプローチの視点から，支援が必要な子どもと集団との関係を検討する。（司城） ６．特別支援教育における学術的知見と実践との関係について討論を通じて考察する。（司城） ７．特別支援教育の歴史を踏まえながら，現代の特別支援教育の動向について概観する。（原田） ８．学校改革の視点から特別支援教育の現状と課題について検討する。（原田） ９．学校における特別支援教育コーディネーターの役割と組織のあり方について検討する。（原田） １０．学級集団づくり，授業づくりの視点から特別支援教育の現状と課題について検討する。（原田） １１．実務家教員の学校現場における事例をもとに，特別支援教育のあり方に関する討論を

	行う。（原田） １２．学校内外の連携のあり方について検討する。（原田・司城） １３．授業を踏まえて各自が特別支援教育に関する課題と考える事柄に関してレポートをまとめ，報告し合う。（原田・司城） １４．授業を踏まえて各自が特別支援教育に関する課題と考える事柄に関してレポートをまとめ，報告し合う。また，最後に全体討議を行う。（原田・司城） １５．まとめとして，授業全体の振り返りを行う。小グループに分かれ，自分自身の考え方や見方の変化について意見を交換し合う。（原田・司城）
教科書・参考書等 ／Textbooks	（参考書） 湯浅恭正編『よくわかる特別支援教育』ミネルヴァ書房，2008. 柘植雅義著『特別支援教育―多様なニーズへの挑戦―』中公新書，2013.
成績評価の方法 ／Evaluation	討論におけるパフォーマンス，レポート等を総合的に判断して評価する。
学習上の助言 ／Learning Advice	受講者一人ひとりが，自分の「問い」と授業内容とを結びつけながら参加していただければと思います。

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	英語授業デザイン論
代表教員名／Instructor	田村　岳充 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	
授業種別／Type of class	
時間割コード／Registration Code	M402280
ナンバリング／Numbering ※試行中	9999999F
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　前期／First semester
開講曜日　時限／Class period	他／Oth.
単位数／Credits	2
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）
連絡先／Contact	田村　岳充(田村 岳充(tamuratakamitsu@cc.utsunomiya-u.ac.jp))
オフィスアワー／Office hours	田村　岳充(田村 岳充(水曜日（10:30～12：00）　木曜日（10：30～12：00）|田村研究室|（オフィスアワー以外でも対応可能な場合があるので，メールで連絡をしてください）))

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2018/12/13
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	15回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	ー
授業の内容 ／Course Description	前半は英語授業ビデオ視聴を中心に据え、毎回設定される視点をもとに互いの気付きを交流させる。その際、自身の授業実践上の課題も意識して視聴することで、各々の授業改善に向けたヒントが得られるようにする。 後半は前半のビデオ視聴で学んだことをもとに、模擬授業のプランを練り上げ、実践をし、振り返る。
授業の到達目標 ／Course Goals	受講者の授業実践上の課題（学卒院生の場合はこれまで受講してきた授業や、教育実習の際の授業実践を対象）を明らかにするとともに、その課題の解決に向けて具体的なアクションが起こせるようにすることを目指す。また、授業改善の具体的な方法について学び、自身の授業のみならず、学校の英語科内や地域の研修会などでの中核となれる資質を身に付ける。学卒院生は、今後現場に出て授業を行い、改善を進めていくPDCAサイクルについて現職院生と協同的に学びながら学びとることを目指す。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	選択科目 学校改革力・授業力・個への対応力のうち、授業力の育成をねらいとする。
前提とする知識 ／Prerequisites	共通科目：授業研究の運営と課題、教材開発と教育方法の実践と課題 選択科目：授業実践基礎、授業における個のとらえ方と対応、授業改善とテクノロジで学んだ内容と関連している。
関連科目 ／Related Courses	共通科目：授業研究の運営と課題、教材開発と教育方法の実践と課題 選択科目：授業実践基礎、授業における個のとらえ方と対応、授業改善とテクノロジ
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	受講者のディスカッションを中心として授業を進める。相互に交わされる意見をもとに、多面的・多角的な視点から自分の授業実践を振り返るとともに、自身の授業の良さや改善すべき点について気付くことができるようにする。学んだ授業改善の具体的方法が現場に戻った際にも活用できるよう、座学で理論を学ぶような形式ではなく、実践的な学びとなるようにする。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第１回 オリエンテーション 第２回 ディスカッション（受講者の授業実践の課題・この演習で何をつかみたいか） 第３回 英語授業デザインについて（授業ビデオ視聴）第二言語習得の視点から 第４回 英語授業デザインについて（授業ビデオ視聴）学習者の反応に注目して 第５回 英語授業デザインについて（授業ビデオ視聴）インタラクションに注目して 第６回 英語授業デザインについて（授業ビデオ視聴）コミュニケーション活動 第７回 英語授業デザインについて（授業ビデオ視聴）教科書の内容理解 第８回 ディスカッション（ここまでに気づいたこと、学んだこと） 第９回 模擬授業に向けたディスカッション　授業の構想 第10回 模擬授業に向けたディスカッション　授業のリハーサル 第12回 模擬授業と振り返り（前半グループ） 第13回 模擬授業と振り返り（後半グループ） 第14回 ディスカッション（この演習で何をつかんだか） 第15回 まとめと振り返り
教科書・参考書等 ／Textbooks	授業の中で読んでおきたい書籍については逐次紹介します。
成績評価の方法 ／Evaluation	・出席（２０％），授業への参加状況（貢献）（５０％），模擬授業（３０％）
学習上の助言 ／Learning Advice	学習者に英語をどう教えるか、という視点のみならず、学習者が何を、どのように学びたいと考えているのか、また、実際にどう学んでいるのか、という視点を大切にしていきます。自分が行ってきた（これから行うであろう）授業を学習者の視点から見つめ直しましょう。
キーワード ／Keywords	学習者に寄り添う視点、英語授業分析、英語授業改善、第二言語習得

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	リフレクションⅠ／Reflection Ⅰ
代表教員名／Instructor	小野瀬　善行 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	教職大学院専任教員
授業種別／Type of class	
時間割コード／Registration Code	M403110
ナンバリング／Numbering ※試行中	9999999F
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　通年／Year-long
開講曜日　時限／Class period	金／Fri　5 , 金／Fri　6 , 金／Fri　7 , 金／Fri　8
単位数／Credits	4
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	小野瀬　善行(瓦井 千尋(kawarai@cc.utsunomiya-u.ac.jp 028(649)5271))
オフィスアワー／Office hours	小野瀬　善行(瓦井 千尋(毎授業後(水)、教職センター室内において(10:30～11:00)))

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/18
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	実習（教育実践プロジェクト・長期インターンシップ）における「実践」と、共通科目および選択科目における「教育理論と学校現場での問題解決の方法論」の往還を意図した科目である。これまでの実践の省察、教育実践プロジェクトや長期インターンシップにおける課題設定・計画立案・省察・改善等を行うことで、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。また、往還の成果は報告書等にまとめ、発表する。
授業の到達目標 ／Course Goals	（現職院生） 教育実践プロジェクトにおける課題設定、計画立案、省察、改善、報告書の作成、成果発表ができる。 教育実践プロジェクトにおける課題解決を進める過程で、理論と実践を往還することができる。 （学卒院生） 長期インターンシップにおける課題設定、計画立案、省察、改善、報告書の作成、成果発表ができる。 長期インターンシップの課題解決を現職院生と協働しながら進めることで、理論と実践を往還する意味を理解できる。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	必修科目 主に，学校改革力・授業力・個への対応力を育てることをねらいとする科目である。
前提とする知識 ／Prerequisites	特になし
関連科目 ／Related Courses	すべての共通科目と選択科目と関連する。また、「教育実践プロジェクトＩ」および「長期インターンシップ」と直接的に関連しながら、課題の設定や省察、活動のまとめを行う。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	（授業の方法） 学生、主担当教員、副担当教員がチームを構成し、「チームリフレクション」を行うことを基本とする。前期は、以下を行う。現職院生は、連携協力実習校の学校課題に関連する理論や実践の整理を行う。学卒院生は、長期インターンシップでの課題設定及び活動計画の立案を行う。後期は、教育実践プロジェクトおよび長期インターンシップの活動を省察する。この他に、チーム間の情報の共有や連携を図ると共に、自チームの省察をより深めるため、「全体リフレクション」を開催する。また、チームの活動だけでなく、個人の課題解決に対応するために、適宜、「個別リフレクション」を行う。 （共に学ぶ効果と手だて） 現職院生、学卒院生、主担当教員、副担当教員がチームを構成し、チームリフレクションを行う。これによって現職院生は、課題解決の過程を、学卒院生に説明することによって、実践と関連する理論や省察の内容を整理できる。また、学卒院生の課題解決の過程を知り、アドバイスすることで、校内のリーダーとして若手教員とのよりよい関わり方を学ぶ。 学卒院生は、現職院生の経験を知ることで、教育実践や学校現場の理解ができる。また、学卒院生は、実践経験が少なく、理論が先行しがちである。現職院生の経験を聞くことで少ない実践を補い、理論と実践の往還を促進させることができる。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	（現職院生） １.４月 これまでの教育実践の紹介をしたり、専任教員の専門と教育実践プロジェクトの活動事例を聞き主担当教員を決定したりする。 ２.５・６月 主担当教員ごとにゼミナールを行うことで、これまでの教育実践と理論との関連、各自の関心の絞り込みを行う。６月末に連携協力実習校が決定する。 ３.７・８月 連携協力実習校の校内研修等へ参加することで、学校の現状や連携テーマを理解する。また、連携テーマに関連する文献や先行実践を整理することで、実践研究の見通しを立てる。 ４.９月 連携協力実習校の教育活動に参加する。それによって情報を元に、連携の方向性および関連する研究課題（学生やチームが設定する課題）を設定する。全体リフレクションを行い、チーム間の交流を行う。 ５.１０～１２月 各自やチームの実践及び問題解決の過程を分析する。

	６.1月・２月 活動全体を分析し、実践研究報告書を作成する。分析結果や提言等は、連携協力実習校に報告する。活動全体を分析し、実習日誌を作成する。また、次年度の連携の有無や連携の方向性を検討する。全体リフレクションを行い、チーム間の交流を行う。 （学卒院生） １．４月・５月 これまでの経験から自己の課題を明確にする。現職院生との交流から、実践現場の理解を進める。 ２．６月・７月 附属学校との事前打ち合わせを行う。共通科目や選択科目で取得する理論と打合せの内容を関連させながら、課題設定及び活動計画の立案を進める。 ３．９月・１０月 自己の活動と教育理論との関連を整理する。１１月以降に行う授業実践の研究テーマを決め、具体的な指導計画を作成する。全体リフレクションを行い、チーム間の交流を行う。 ４．１１月～１２月 連続した授業実践を行う中で、活動の振り返り、修正を進める。 ５．１月・２月 活動全体を分析し、実践研究報告書を作成する。活動全体を分析し、実習日誌を作成する。また、現職院生の活動報告を聞きながら、次年度の活動イメージを構築する。全体リフレクションを行い、チーム間の交流を行う。
教科書・参考書等 ／Textbooks	チーム毎に設定される。
成績評価の方法 ／Evaluation	評価は、２名の担当教員で行う。実習のポートフォリオ、実践報告書、成果発表を総合的に評価する。また、課題設定、計画立案、省察等の過程も評価する。
学習上の助言 ／Learning Advice	全員必修

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	リフレクションⅡ／Reflection II
代表教員名／Instructor	小野瀬　善行 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	教職大学院専任教員
授業種別／Type of class	
時間割コード／Registration Code	M403120
ナンバリング／Numbering ※試行中	9999999F
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　通年／Year-long
開講曜日　時限／Class period	金／Fri　5 , 金／Fri　6 , 金／Fri　7 , 金／Fri　8
単位数／Credits	4
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	小野瀬　善行(瓦井 千尋(kawarai@cc.utsunomiya-u.ac.jp 028(649)5271))
オフィスアワー／Office hours	小野瀬　善行(瓦井 千尋(毎授業後(水)、教職センター室内において(10:30～11:00)))

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/18
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	実習（教育実践プロジェクト）における「実践」と、共通科目および選択科目における「教育理論と学校現場での問題解決の方法論」の往還を意図した科目である。リフレクションⅠを踏まえ、これまでの実践の省察、教育実践プロジェクトにおける課題設定・計画立案・省察・改善等を行うことで、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。また、往還の成果は報告書等にまとめ、発表する。
授業の到達目標 ／Course Goals	（現職院生） 教育実践プロジェクトにおける課題設定、計画立案、省察、改善、報告書の作成、成果発表ができる。 教育実践プロジェクトにおける課題解決を進める過程で、理論と実践の往還を継続的に進めることができる。 （学卒院生） 教育実践プロジェクトにおける課題設定、計画立案、省察、改善、報告書の作成、成果発表ができる。 教育実践プロジェクトの課題解決を現職院生と協働しながら進めることで、理論と実践を往還することができる。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	必修科目 主に，学校改革力・授業力・個への対応力を育てることをねらいとする科目である。
前提とする知識 ／Prerequisites	特になし
関連科目 ／Related Courses	すべての共通科目と選択科目と関連する。また、「教育実践プロジェクトⅠ・Ⅱ」および「長期インターンシップ」と直接的に関連しながら、課題の設定や省察、活動のまとめを行う。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	（授業の方法） 学生、主担当教員、副担当教員がチームを構成し、「チームリフレクション」を行うことを基本とする。前期は、以下を行う。現職院生は、連携協力実習校の学校課題に関連する理論や実践の整理を行う。学卒院生は、教育実践プロジェクトでの課題設定及び活動計画の立案を行う。後期は、教育実践プロジェクトの活動を省察する。この他に、チーム間の情報の共有や連携を図ると共に、自チームの省察をより深めるため、「全体リフレクション」を開催する。また、チームの活動だけでなく、個人の課題解決に対応するために、適宜、「個別リフレクション」を行う。 （共に学ぶ効果と手だて） 現職院生、学卒院生、主担当教員、副担当教員がチームを構成し、チームリフレクションを行う。これによって現職院生は、課題解決の過程を、学卒院生に説明することによって、実践と関連する理論や省察の内容を整理できる。また、学卒院生の課題解決の過程を知り、アドバイスすることで、校内のリーダーとして若手教員とのよりよい関わり方を学ぶ。 学卒院生は、現職院生の経験を知ることで、教育実践や学校現場の理解ができる。また、学卒院生は、実践経験が少なく、理論が先行しがちである。現職院生の経験を聞くことで少ない実践を補い、理論と実践の往還を促進させることができる。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	（現職院生） １，前期 １年次の教育実践プロジェクトおよびリフレクションで得られた課題を整理し、課題解決のための方略を学校側と共に検討する。連携協力実習校の校内研修等に参加することで、詳細な実態把握に努める。前年度の活動を連続して進めたり、年度末に提案した内容を実施したりすることも考えられるため、実態に応じて連携協力実習校での活動とする. これまでの教育実践の紹介をしたり、専任教員の専門と教育実践プロジェクトの活動事例を聞き主担当教員を決定したりする。 ２．後期 ９月から１２月は、前期に計画された改善案を実施・評価することで、学生やチームが設定する課題を解決する。１～２月は、活動全体を分析し、実習日誌のまとめ、実践研究報告書の作成をする。分析結果や提言等は、昨年度の比較も含めて連携協力実習校に報告する。 （学卒院生） １．前期 前年度のリフレクションで見いだされた課題を明確にする。更に、現職院生が行っている、

	連携協力実習校の連携テーマに関連する活動に参加することで、連携協力実習校の実態を理解する。 これまでの経験から自己の課題を明確にする。現職院生との交流から、実践現場の理解を進める。 ２．後期 ９月～１０月は、自己の活動と教育理論との関連を整理する。また、１１月以降に予定された授業実践のテーマを決め、具体的な指導計画を作成する。 １１月から１２月は、連続した授業実践を行いながら、活動の振り返り、修正を進める。また、現職院生が設定した課題について、問題解決の過程を分析する。 １～２月は、活動全体を分析し、実習日誌のまとめ、実践研究報告書の作成をする。
教科書・参考書等 ／Textbooks	チーム毎に設定される
成績評価の方法 ／Evaluation	評価は、２名の担当教員で行う。実習のポートフォリオ、実践報告書、成果発表を総合的に評価する。また、課題設定、計画立案、省察等の過程も評価する。
学習上の助言 ／Learning Advice	全員必修。

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	教育実践プロジェクトⅠ／Project of Educational Practice Ⅰ
代表教員名／Instructor	小野瀬　善行 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	
授業種別／Type of class	
時間割コード／Registration Code	M404110
ナンバリング／Numbering ※試行中	9999999F
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　通年／Year-long
開講曜日　時限／Class period	他／Oth.
単位数／Credits	5
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	小野瀬　善行(瓦井 千尋(kawarai@cc.utsunomiya-u.ac.jp 028(649)5271))
オフィスアワー／Office hours	小野瀬　善行(瓦井 千尋(毎授業後(水)、教職センター室内において(10:30～11:00)))

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/18
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	自己の伸長すべき力と同じテーマをもつ連携協力実習校に配属される。連携協力実習校の学校改革や授業改善に協力することで、現場に即した教育研究を進める。スクール・リーダーとなる教師を育成するため、学校の要望に応じて、授業や教育研究を支援したり、連携協力実習校の教諭とティームティーチング等を組みながら、課題解決を行うことで、学校改革力、授業力、個への対応力を養う。
授業の到達目標 ／Course Goals	（現職院生） 学校改革のため学校課題を見極め、その解決を推進することや、学校内外と協働して課題解決に取り組むことができる。 授業研究を組織しリードすることや、すべての学習者に深い学びを保障することができる。 特別支援教育の考え方を学習指導や学校経営に生かすことができる
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	必修科目（現職者） 主に，学校改革力・授業力・個への対応力を育てることをねらいとする科目である。
前提とする知識 ／Prerequisites	特になし
関連科目 ／Related Courses	これまでの実践を基礎とし、すべての共通科目と選択科目と関連する。また、「リフレクションＩ」と関連しながら、課題の設定や活動のまとめを行う。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業は、主担当教員および副担当教員が共同で授業を担当する。自己の伸長すべき力と同じテーマをもつ連携協力実習校に配属される。連携協力実習校の学校改革や授業改善に協力することで、現場に即した教育研究を進める。 連携協力実習校の連携テーマに応じて実習の形態を決定する。週２回（１回４時間）×約１９週もしくは、たとえば週２回（１回8時間）×約１０週を行う「分散型」を基本とするが、授業実践等の関連で連続して行うこともある。活動形態はチームごとに異なるが、概ね以下の活動となる。おおよそ７月は連携協力実習校と連絡を取りながら９月からの活動を計画する。９から１２月は、具体的な連携をしながら、各自やチームの実践や問題解決を進める。活動やその考察は、ポートフォリオに蓄積する。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	１．年度当初に、リフレクションの活動を通して、主担当教員を決定する。 ２．連携協力実習校にて、ガイダンスおよび事前打ち合わせを行う。 ３．随時協議を行い、自己の課題解決と連携テーマを受けた教育実践プロジェクトの活動を調整する。 ４．150時間以上の活動を行う。 ５．活動は、学校や連携テーマに応じて調整するが、以下の例がある。 第１週～第４週：学校および児童理解 ・児童生徒の実態、地域のニーズ、学校の教員組織などを把握する。 第５週～第１８週：各活動 校内研究会、研究推進委員会が行なわれる日など決められた曜日に活動する。その活動内容は、以下を想定する。 ・特別支援を必要とする児童・生徒の指導に関する課題の支援策を、連携協力実習校の担当教員と共に策定・企画し、実施・評価する。例えば、親との面接、地域との話し合いに参加するなど親や地域との連携を図りながら課題解決のための方策を提案する。 ・校内研究会の運営に関する課題の支援策を、連携協力実習校の担当教員と共に策定・企画し、実施・評価する。例えば、研究主任と連絡し、研究授業などの授業記録や児童・生徒のノート分析を支援する。提案授業を実施したり、協議会で意見交換、記録作成などを行ったりする。 ・生徒指導、学校運営に関する課題の支援策を、連携協力実習校の担当教員と共に策定・企画し、実施・評価する。例えば、児童指導主任・生徒指導主任と連絡を取りながら生徒指導の支援策を検討する。 ・地域と学校との連携に関する課題の支援策を策定・企画し、実施・評価する。例えば、校長、教頭と連絡を取りながら、地域のニーズ調査、PTA 活動への参加、地域の他の教育機関との連絡調整を行う。 ・学校評価に関する課題の支援策を、連携協力実習校の担当教員と共に策定・企画し、実施・評価する。例えば、教務主任と連絡を取りながら、学校評価の内容や方法の再検討、評価結果の分析や考察の補助を行う。 第１９週：提案

	活動の成果をふまえ、学校改革・授業改善の提案を行う。 その成果を2月初旬に行われる宇大教育実践フォーラムで発表する。
教科書・参考書等 ／Textbooks	特になし
成績評価の方法 ／Evaluation	評価は、２名の担当教員で行う。観察と実習日誌による活動の状況から、実践的指導力の向上を総合的に判断する。また、リフレクションと関連して行う、課題設定、計画立案、省察等の過程も評価する。
学習上の助言 ／Learning Advice	現職院生は全員必修。

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	教育実践プロジェクトⅡA／Project of Educational Practice IIA
代表教員名／Instructor	小野瀬　善行 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	
授業種別／Type of class	
時間割コード／Registration Code	M404120
ナンバリング／Numbering ※試行中	9999999F
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　通年／Year-long
開講曜日　時限／Class period	他／Oth.
単位数／Credits	5
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	小野瀬　善行(瓦井 千尋(kawarai@cc.utsunomiya-u.ac.jp 028(649)5271))
オフィスアワー／Office hours	小野瀬　善行(瓦井 千尋(毎授業後(水)、教職センター室内において(10:30～11:00)))

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/18
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	教育実践プロジェクトＩを踏まえ、引き続き自己の伸長すべき力と同じテーマをもつ連携協力実習校に配属される。連携協力実習校の学校改革や授業改善に協力することで、現場に即した教育研究を進める。スクール・リーダーとなる教師を育成するため、学校の要望に応じて、授業や教育研究を支援したり、連携協力実習校の教諭とティームティーチング等を組みながら、課題解決を行うことで、学校改革力、授業力、個への対応力を養う。
授業の到達目標 ／Course Goals	（現職院生） 学校改革のため学校課題を見極め、その解決を推進することや、学校内外と協働して課題解決に取り組むことができる。 授業研究を組織しリードすることや、すべての学習者に深い学びを保障することができる。 特別支援教育の考え方を学習指導や学校経営に生かすことができる
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	現職院生の必修科目 主に，学校改革力・授業力・個への対応力を育てることをねらいとする科目である。
前提とする知識 ／Prerequisites	これまでの実践を基礎とする。
関連科目 ／Related Courses	これまでの実践を基礎とし、すべての共通科目と選択科目と関連する。また、「リフレクションⅡ」と関連しながら、課題の設定や活動のまとめを行う。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業は、主担当教員および副担当教員が共同で授業を担当する。自己の伸長すべき力と同じテーマをもつ連携協力実習校に配属される。連携協力実習校の学校改革や授業改善に協力することで、現場に即した教育研究を進める。 連携協力実習校の連携テーマに応じて実習の形態を決定する。週２回（１回４時間）×約１９週 もしくはたとえば週２回（１回8時間）×約１０週を行う「分散型」を基本とするが、授業実践等の関連で連続して行うこともある。活動形態はチームごとに異なるが、概ね以下の活動となる。９月から１２月の４か月間を主な実習期間とする。９月は、週２回程度の教育活動（授業など）に参加しながら、連携テーマと連携協力実習校の実態を具体的に把握し、１０月以降の活動を計画する。１０～１２月は、具体的な連携をしながら、各自やチームの実践や問題解決を進める。活動やその考察は、ポートフォリオに蓄積する。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	１．連携協力実習校と連絡をとりながら、活動を計画する。 ２．随時協議を行い、自己の課題解決と連携テーマを受けた教育実践プロジェクトの活動を調整する。 ３．150時間以上の活動を行う。 ４．活動は、学校や連携テーマに応じて調整するが、以下の例がある。 第１週～第１８週：各活動 校内研究会、研究推進委員会が行なわれる日など決められた曜日に活動する。その活動内容は、以下を想定する。 ・特別支援を必要とする児童・生徒の指導に関する課題の支援策を、連携協力実習校の担当教員と共に策定・企画し、実施・評価する。例えば、親との面接、地域との話し合いに参加するなど親や地域との連携を図りながら課題解決のための方策を提案する。 ・校内研究会の運営に関する課題の支援策を、連携協力実習校の担当教員と共に策定・企画し、実施・評価する。例えば、研究主任と連絡し、研究授業などの授業記録や児童・生徒のノート分析を支援する。提案授業を実施したり、協議会で意見交換、記録作成などを行ったりする。 ・生徒指導、学校運営に関する課題の支援策を、連携協力実習校の担当教員と共に策定・企画し、実施・評価する。例えば、生活指導主任と連絡を取りながら生徒指導の支援策を検討する。 ・地域と学校との連携に関する課題の支援策を策定・企画し、実施・評価する。例えば、校長、教頭と連絡を取りながら、地域のニーズ調査、PTA 活動への参加、地域の他の教育機関との連絡調整を行う。 ・学校評価に関する課題の支援策を、連携協力実習校の担当教員と共に策定・企画し、実施・評価する。例えば、教務主任と連絡を取りながら、学校評価の内容や方法の再検討、評価結果の分析や考察の補助を行う。 第１９週：提案 活動の成果をふまえ、学校改革・授業改善の提案を行う。 その成果を2月初旬に行われる宇大教育実践フォーラムで発表する。
	特になし

教科書・参考書等 ／Textbooks	
成績評価の方法 ／Evaluation	評価は、２名の担当教員で行う。観察と実習日誌による活動の状況から、実践的指導力の向上を総合的に判断する。また、リフレクションと関連して行う、課題設定、計画立案、省察等の過程も評価する。
学習上の助言 ／Learning Advice	現職院生は全員必修。

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	長期インターンシップ／Long-term Internship
代表教員名／Instructor	小野瀬　善行 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	
授業種別／Type of class	
時間割コード／Registration Code	M404130
ナンバリング／Numbering ※試行中	9999999F
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　通年／Year-long
開講曜日　時限／Class period	他／Oth.
単位数／Credits	5
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	小野瀬　善行(瓦井 千尋(kawarai@cc.utsunomiya-u.ac.jp 028(649)5271))
オフィスアワー／Office hours	小野瀬　善行(瓦井 千尋(毎授業後(水)、教職センター室内において(10:30～11:00)))

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/18
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	即戦力となる新人教員の養成のため、附属小中学校において授業の参与観察やティームティーチング、個別指導を行う中で、教師としての使命感・自覚を身に付けるとともに、子ども理解に基づいて授業計画力、授業指導力、授業分析力を養う。また、担任業務の補助をすることで、学習指導以外の職務を理解する。これらを通して、２年次の教育実践プロジェクトⅡBで解決すべき、自己の課題を把握する。
授業の到達目標 ／Course Goals	（学卒院生） 子ども理解に基づいて、授業を計画すること、授業指導を展開すること、授業を分析することができる。 授業以外の担任業務を理解することができる。 【前提とする知識・関連する科目等】 学部での教育実習を基礎とし、すべての共通科目と選択科目の「集団づくり論」「授業実践基礎」「授業における個のとらえ方と対応」と関連する。また、「リフレクションⅠ」と関連しながら、課題の設定や活動のまとめを行う。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	必修科目（１年次学卒院生） 主に，学校改革力・授業力・個への対応力を育てることをねらいとする科目である。
前提とする知識 ／Prerequisites	学部での教育実習を基礎とする。
関連科目 ／Related Courses	学部での教育実習を基礎とし、すべての共通科目と選択科目の「集団づくり論」「授業実践基礎」「授業における個のとらえ方と対応」と関連する。また、「リフレクションⅠ」と関連しながら、課題の設定や活動のまとめを行う。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業は、主担当教員および附属小中学校の主幹教諭（教職大学院の専任）が共同で授業を担当する。９月から１２月の間、特定のクラスに配属され、１５０時間の活動を行う。前半は、担任と行動を共にし、業務の補助や授業における個別支援をしながら、担当学級の理解、教育活動全般の理解、個への対応の在り方の理解を促進する。後半は、特定教科の単元もしくは小単元を担当し、連続した授業実践を行う。 学級や授業研究のテーマ等に応じて実習の形態を決定する。週２回（１回４時間）×約１９週 もしくはたとえば週２回（１回8時間）×約１０週を行う「分散型」を基本とするが、授業実践の関連で連続して行うこともある。活動やその考察は、ポートフォリオに蓄積する。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	１．年度当初に、リフレクションの活動を通して、主担当教員を決定する。 ２．附属小中学校にて、ガイダンスおよび事前打ち合わせを行う。 ３．随時協議を行い実習の活動と授業研究のテーマと方法を調整する。 ４．150時間以上の活動を行う。 ５．　活動は、クラスや学生の実態に応じて調整するが、以下の例がある。 第１週から第４週：学校および児童理解 ・Ｔ２として授業に参加しながら、学校及び子どもを理解する力を養う。 ・Ｔ１の授業参観を通して、教材および指導法から授業を分析する力を養う。 第５週から第８週：授業分析・授業研究の計画 ・Ｔ１の授業参観を通して、教材および指導法から授業を分析する力を養う。 ・授業研究のテーマの決定および計画立案を通して、授業をデザインする力を養う。 第９週から第１２週：授業実践 ・授業実践を通して、教材開発力、授業指導力を養う。 第１３週から第１６週：授業実践 ・授業実践を通して、教材開発力、授業指導力を養う。 ・授業実践を、質的・量的に評価することで、授業実践の評価力を養う。 第１６週から第１９週：研究授業での提案 ・自らの実践を反省し、自己の力量形成の課題を検討することで、省察の力を養う。 その成果を2月初旬に行われる宇大教育実践フォーラムで発表する。
教科書・参考書等 ／Textbooks	特になし
成績評価の方法 ／Evaluation	評価は、２名の担当教員で行う。観察と実習日誌による活動の状況から、実践的指導力の向上を総合的に判断する。また、リフレクションと関連して行う、課題設定、計画立案、省察等の過程も評価する。

学習上の助言 ／Learning Advice	学卒院生は全員必修

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	教育実践プロジェクトⅡB／Project of Educational Practice IIB
代表教員名／Instructor	小野瀬　善行 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	
授業種別／Type of class	
時間割コード／Registration Code	M404140
ナンバリング／Numbering ※試行中	9999999F
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　通年／Year-long
開講曜日　時限／Class period	他／Oth.
単位数／Credits	5
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	小野瀬　善行(瓦井 千尋(kawarai@cc.utsunomiya-u.ac.jp 028(649)5271))
オフィスアワー／Office hours	小野瀬　善行(瓦井 千尋(毎授業後(水)、教職センター室内において(10:30～11:00)))

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/18
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	長期インターンシップＩを踏まえて、教壇実習を中心に実習しながら自己の課題解決を遂行する。その中で、深い子ども理解に基づいた授業計画力、授業指導力、授業分析力の更なる向上を身につけることができる。現職院生や連携協力校の職員と協力しながら、連携協力実習校の実情に応じて設定された課題等の解決をすることで、学校改革・授業改善の理論と方法を理解することができる。
授業の到達目標 ／Course Goals	（学卒院生） 深い子ども理解に基づいて、授業を計画すること、授業指導を展開すること、授業を分析することができる。 学校改革・授業改善の理論と方法を理解することができる。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	学卒院生の必修科目 主に，学校改革力・授業力・個への対応力を育てることをねらいとする科目である。
前提とする知識 ／Prerequisites	学部での教育実習および長期リフレクションを基礎とする。
関連科目 ／Related Courses	学部での教育実習および長期リフレクションを基礎とし、すべての共通科目と選択科目の「集団づくり論」「授業実践基礎」「授業における個のとらえ方と対応」と関連する。また、「リフレクションⅡ」と関連しながら、課題の設定や活動のまとめを行う。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	（授業の方法） 授業は、主担当教員および副担当教員が共同で授業を担当する。連携協力実習校の特定のクラスに配属される。長期インターンシップと同様の活動を行う中で、前年度の自己の課題を解決する。更に、現職院生や連携協力実習校の職員と協力しながら、学校テーマの解決にも協力する。 学級や授業研究のテーマ等に応じて実習の形態を決定する。週２回（１回４時間）×約１９週 もしくはたとえば週２回（１回8時間）×約１０週を行う「分散型」を基本とするが、授業実践の関連で連続して行うこともある。活動やその考察は、ポートフォリオに蓄積する。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	１．連携協力実習校にて、ガイダンスおよび事前打ち合わせを行う。 ２．随時協議を行い、自己の課題解決と連携テーマを受けた教育実践プロジェクトの活動を調整する。 ３．150時間以上の活動を行う。 ４．活動は、クラスや学校の実態に応じて調整するが、以下の例がある。 第１週～第４週：学校および児童理解 ・Ｔ２として授業に参加しながら、学校及び子どもを理解する力を養う。 ・児童生徒の実態、地域のニーズ、学校の教員組織などを把握する。 第５週～第８週：授業研究の計画 ・Ｔ１の授業参観を通して、教材および指導法から授業を分析する力を養う。 ・前年度の課題との関連から授業研究のテーマの決定し、授業実践の計画を立案する。これによって、授業をデザインずる力および授業研究を計画する力を養う。 ・課題解決に向けた授業を実践し、授業記録を作成し、授業の有効性などの授業分析を行う。その中でプログラムの見直しや修正を行う。 第９週～第１２週：授業実践 ・授業実践を通して、教材開発力、授業指導力を養う。 ・授業実践を、質的・量的に評価することで、授業実践の評価力を養う。 ・TT 指導等をおこなうことで、他の教員と連携する力を養う。 第１３週～第１６週：連携テーマに関する提案授業の計画 ・連携テーマに関する提案授業の計画を立案する。これによって、授業をデザインずる力および授業研究を計画する力を養う。 第１６週～第１９週：研究授業での提案 ・自らの実践を反省し、自己の力量形成の課題を検討することで、省察の力を養う。 連携テーマに関連する提案授業を行い、他の教師との研究協議を行うことで、協働によって省察する力を養う。 その成果を2月初旬に行われる宇大教育実践フォーラムで発表する。
教科書・参考書等 ／Textbooks	特になし
成績評価の方法 ／Evaluation	

	評価は、２名の担当教員で行う。観察と実習日誌による活動の状況から、実践的指導力の向上を総合的に判断する。また、リフレクションと関連して行う、課題設定、計画立案、省察、改善等の過程も評価する。
学習上の助言 ／Learning Advice	学卒院生は全員必修。

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	長期ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ（特別支援学校）
代表教員名／Instructor	司城　紀代美 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	池本　喜代正（教育学部），岡澤　慎一（教育学部）
授業種別／Type of class	実習
時間割コード／Registration Code	M404170
ナンバリング／Numbering ※試行中	
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　通年／Year-long
開講曜日　時限／Class period	他／Oth.
単位数／Credits	5
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	司城　紀代美(司城 紀代美(shijo@cc.utsunomiya-u.ac.jp))
オフィスアワー／Office hours	司城　紀代美(司城 紀代美(前期：水曜16:00～17:00，後期：金曜17:00～18:00 その他メールにて問い合わせてください。))

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/17
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	即戦力となる新人教員の養成のため、附属特別支援学校において授業の参与観察やティームティーチング、個別指導を行う中で、教師としての使命感・自覚を身に付けるとともに、子ども理解に基づいて授業計画力、授業指導力、授業分析力を養う。また、担任業務の補助をすることで、学習指導以外の職務を理解する。これらを通して、２年次の教育実践プロジェクト（特別支援学校）ⅡBで解決すべき、自己の課題を把握する。
授業の到達目標 ／Course Goals	（学卒院生） 子ども理解に基づいて、授業を計画すること、授業指導を展開すること、授業を分析することができる。授業以外の担任業務を理解することができる。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	学部での教育実習を基礎とし、すべての共通科目と選択科目の「集団作り論」「授業実践基礎」「授業における個のとらえ方と対応」と関連する。また、「リフレクションⅠ」と関連しながら、課題の設定や活動のまとめを行う。
前提とする知識 ／Prerequisites	学部での教育実習を基礎とし、すべての共通科目と選択科目の「集団作り論」「授業実践基礎」「授業における個のとらえ方と対応」と関連する。また、「リフレクションⅠ」と関連しながら、課題の設定や活動のまとめを行う。
関連科目 ／Related Courses	学部での教育実習を基礎とし、すべての共通科目と選択科目の「集団作り論」「授業実践基礎」「授業における個のとらえ方と対応」と関連する。また、「リフレクションⅠ」と関連しながら、課題の設定や活動のまとめを行う。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業は、主担当教員および副担当教員が共同で授業を担当する。９月から１２月の間、特定のクラスに配属され、１５０時間の活動を行う。前半は、担任と行動を共にし、業務の補助や授業における個別支援をしながら、担当学級の理解、教育活動全般の理解、個への対応の在り方の理解を促進する。後半は、特定教科の単元もしくは小単元を担当し、連続した授業実践を行う。 学級や授業研究のテーマ等に応じて実習の形態を決定する。週２回（１回４時間）×約１９週 もしくは週２回（１回8時間）×約１０週を行う「分散型」を基本とするが、授業実践の関連で連続して行うこともある。活動やその考察は、ポートフォリオに蓄積する。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	１．年度当初に、リフレクションの活動を通して、主担当教員を決定する。 ２．附属特別支援学校にて、ガイダンスおよび事前打ち合わせを行う。 ３．随時協議を行い実習の活動と授業研究のテーマと方法を調整する。 ４．150時間以上の活動を行う。 ５．活動は、クラスや学生の実態に応じて調整するが、以下の例がある。 第１週～第４週：学校および児童理解 ・Ｔ２あるいはＴ３として授業に参加しながら、学校及び子どもを理解する力を養う。 ・Ｔ１の授業参観を通して、教材および指導法から授業を分析する力を養う。 第５週～第８週：授業分析・授業研究の計画 ・Ｔ１の授業参観を通して、教材および指導法から授業を分析する力を養う。 ・授業研究のテーマの決定および計画立案を通して、授業をデザインする力を養う。 第９週～第１２週：授業実践 ・授業実践を通して、教材開発力、授業指導力を養う。 第１３週～第１６週：授業実践 ・授業実践を通して、教材開発力、授業指導力を養う。 ・授業実践を、質的・量的に評価することで、授業実践の評価力を養う。 第１６週～第１９週：研究授業での提案 ・自らの実践を反省し、自己の力量形成の課題を検討することで、省察の力を養う。
教科書・参考書等 ／Textbooks	特になし
成績評価の方法 ／Evaluation	評価は、２名の担当教員で行う。観察と実習日誌による活動の状況から、実践的指導力の向上を総合的に判断する。また、リフレクションと関連して行う、課題設定、計画立案、省察等の過程も評価する。
学習上の助言 ／Learning Advice	受講者一人ひとりが，自分の「問い」と授業内容とを結びつけながら参加していただければと思います。

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	教育実践ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄⅠ（特別支援学校）
代表教員名／Instructor	司城　紀代美 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	池本　喜代正（教育学部），岡澤　慎一（教育学部）
授業種別／Type of class	実習
時間割コード／Registration Code	M404150
ナンバリング／Numbering ※試行中	
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　通年不定時／Year-long
開講曜日　時限／Class period	他／Oth.
単位数／Credits	5
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	司城　紀代美(司城 紀代美(shijo@cc.utsunomiya-u.ac.jp))
オフィスアワー／Office hours	司城　紀代美(司城 紀代美(前期：水曜16:00～17:00，後期：金曜17:00～18:00 その他メールにて問い合わせてください。))

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/17
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	自己の伸長すべき力と同じテーマをもつ連携協力校に配属される。連携協力校の学校改革や授業改善に協力することで、現場に即した教育研究を進める。スクール・リーダーとなる教師を育成するため、学校の要望に応じて、授業や教育研究を支援したり、連携協力校の教諭とティームティーチング等を組みながら課題解決を行うことで、特別支援学校の教師としての力を養う。
授業の到達目標 ／Course Goals	（現職院生） 特別支援教育の視点から、学習指導や学校経営に取り組むことができる。 学校改革のため学校課題を見極め、その解決を推進することや、学校内外と協働して課題解決に取り組むことができる。 授業研究を組織しリードすることや、すべての学習者に深い学びを保障することができる。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	これまでの実践を基礎とし、すべての共通科目と選択科目と関連する。また、「リフレクションＩ」と関連しながら、課題の設定や活動のまとめを行う。
前提とする知識 ／Prerequisites	これまでの実践を基礎とし、すべての共通科目と選択科目と関連する。また、「リフレクションＩ」と関連しながら、課題の設定や活動のまとめを行う。
関連科目 ／Related Courses	これまでの実践を基礎とし、すべての共通科目と選択科目と関連する。また、「リフレクションＩ」と関連しながら、課題の設定や活動のまとめを行う。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業は、主担当教員および副担当教員が共同で授業を担当する。自己の伸長すべき力と同じテーマをもつ連携協力校に配属される。連携協力校の学校改革や授業改善に協力することで、現場に即した教育研究を進める。 連携協力校の連携テーマに応じて実習の形態を決定する。週２回（１回４時間）×約１９週もしくは週２回（１回8時間）×約１０週を行う「分散型」を基本とするが、授業実践等の関連で連続して行うこともある。活動形態はチームごとに異なるが、概ね以下の活動となる。４から７月は連携協力校と連絡を取りながら９月からの活動を計画する。９～１２月は、具体的な連携をしながら、各自やチームの実践や問題解決を進める。活動やその考察は、ポートフォリオに蓄積する。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	１．年度当初に、リフレクションの活動を通して、主担当教員を決定する。 ２．連携協力校にて、ガイダンスおよび事前打ち合わせを行う。 ３．随時協議を行い、自己の課題解決と連携テーマを受けた教育実践プロジェクトの活動を調整する。 ４．150時間以上の活動を行う。 ５．活動は、学校や連携テーマに応じて調整するが、以下の例がある。 第１週～第４週：学校および児童理解 ・児童生徒の実態、地域のニーズ、学校の教員組織などを把握する。 第５週～第１８週：各活動 校内研究会、研究推進委員会が行なわれる日など決められた曜日に活動する。その活動内容は、以下を想定する。 ・児童・生徒の指導に関する課題の支援策を、連携協力校の担当教員と共に策定・企画し、実施・評価する。例えば、親との面接、地域との話し合いに参加するなど親や地域との連携を図りながら課題解決のための方策を提案する。 ・校内研究会の運営に関する課題の支援策を、連携協力校の担当教員と共に策定・企画し、実施・評価する。例えば、研究主任と連絡し、研究授業などの授業記録を作成する。提案授業を実施したり、協議会で意見交換、記録作成などを行う。 ・生徒指導、学校運営に関する課題の支援策を、連携協力校の担当教員と共に策定・企画し、実施・評価する。例えば、生活指導主任と連絡を取りながら生徒指導の支援策を検討する。 ・地域と学校との連携に関する課題の支援策を策定・企画し、実施・評価する。例えば、校長、教頭と連絡を取りながら、地域のニーズ調査、PTA 活動への参加、地域の他の教育機関との連絡調整を行う。 ・学校評価に関する課題の支援策を、連携協力校の担当教員と共に策定・企画し、実施・評価する。例えば、教務主任と連絡を取りながら、学校評価の内容や方法の再検討、評価結果の分析や考察の補助を行う。 第１９週：提案 活動の成果をふまえ、学校改革・授業改善の提案を行う。
教科書・参考書等 ／Textbooks	特になし

成績評価の方法 ／Evaluation	評価は、２名の担当教員で行う。観察と実習日誌による活動の状況から、実践的指導力の向上を総合的に判断する。また、リフレクションと関連して行う、課題設定、計画立案、省察等の過程も評価する。
学習上の助言 ／Learning Advice	受講者一人ひとりが，自分の「問い」と授業内容とを結びつけながら参加していただければと思います。

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	教育実践ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄⅡB（特別支援学校）
代表教員名／Instructor	司城　紀代美 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	池本　喜代正（教育学部），岡澤　慎一（教育学部）
授業種別／Type of class	実習
時間割コード／Registration Code	M404180
ナンバリング／Numbering ※試行中	
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　通年不定時／Year-long
開講曜日　時限／Class period	他／Oth.
単位数／Credits	5
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	司城　紀代美(司城 紀代美(shijo@cc.utsunomiya-u.ac.jp))
オフィスアワー／Office hours	司城　紀代美(司城 紀代美(前期：水曜16:00～17:00，後期：金曜17:00～18:00 その他メールにて問い合わせてください。))

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/17
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	長期インターンシップ（特別支援学校）を踏まえて、実習しながら自己の課題解決を遂行する。その中で、支援を必要とする子どもへの深い理解に基づいた授業計画力、授業指導力、授業分析力の更なる向上を身につけることができる。現職院生や連携協力校の職員と協力しながら、連携協力校の実情に応じて設定された課題等の解決をすることで、学校改革・授業改善の理論と方法を理解する。
授業の到達目標 ／Course Goals	（学卒院生） 深い子ども理解に基づいて、授業を計画すること、授業指導を展開すること、授業を分析することができる。 学校改革・授業改善の理論と方法を理解することができる。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	学部での教育実習および長期インターンシップを基礎とし、すべての共通科目と選択科目の「集団作り論」「授業実践基礎」「授業における個のとらえ方と対応」と関連する。また、「リフレクションⅡ」と関連しながら、課題の設定や活動のまとめを行う。
前提とする知識 ／Prerequisites	学部での教育実習および長期インターンシップを基礎とし、すべての共通科目と選択科目の「集団作り論」「授業実践基礎」「授業における個のとらえ方と対応」と関連する。また、「リフレクションⅡ」と関連しながら、課題の設定や活動のまとめを行う。
関連科目 ／Related Courses	学部での教育実習および長期インターンシップを基礎とし、すべての共通科目と選択科目の「集団作り論」「授業実践基礎」「授業における個のとらえ方と対応」と関連する。また、「リフレクションⅡ」と関連しながら、課題の設定や活動のまとめを行う。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業は、主担当教員および副担当教員が共同で授業を担当する。連携協力校の特定のクラスに配属される。長期インターンシップと同様の活動を行う中で、前年度の自己の課題を解決する。更に、現職院生や連携協力校の職員と協力しながら、学校テーマの解決にも協力する。 学級や授業研究のテーマ等に応じて実習の形態を決定する。週２回（１回４時間）×約１９週 もしくは週２回（１回8時間）×約１０週を行う「分散型」を基本とするが、授業実践の関連で連続して行うこともある。活動やその考察は、ポートフォリオに蓄積する。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	１．連携協力校にて、ガイダンスおよび事前打ち合わせを行う。 ２．随時協議を行い、自己の課題解決と連携テーマを受けた教育実践プロジェクトの活動を調整する。 ３．150時間以上の活動を行う。 ４．活動は、クラスや学校の実態に応じて調整するが、以下の例がある。 第１週～第４週：学校および児童理解 ・Ｔ２あるいはＴ３として授業に参加しながら、学校及び子どもを理解する力を養う。 ・児童生徒の実態、地域のニーズ、学校の教員組織などを把握する。 第５週～第８週：授業研究の計画 ・Ｔ１の授業参観を通して、教材および指導法から授業を分析する力を養う。 ・前年度の課題との関連から授業研究のテーマの決定し、授業実践の計画を立案する。これによって、授業をデザインずる力および授業研究を計画する力を養う。 ・課題解決に向けた授業を実践し、授業記録を作成し、授業の有効性などの授業分析を行う。その中でプログラムの見直しや修正を行う。 第９週～第１２週：授業実践 ・授業実践を通して、教材開発力、授業指導力を養う。 ・授業実践を、質的・量的に評価することで、授業実践の評価力を養う。 ・TT 指導をおこなうことで、他の教員と連携する力を養う。 第１３週～第１６週：連携テーマに関する提案授業の計画 ・連携テーマに関する提案授業の計画を立案する。これによって、授業をデザインずる力および授業研究を計画する力を養う。 第１６週～第１９週：研究授業での提案 ・自らの実践を反省し、自己の力量形成の課題を検討することで、省察の力を養う。 ・連携テーマに関連する提案授業を行い、他の教師との研究協議を行うことで、協働によって省察する力を養う。
教科書・参考書等 ／Textbooks	特になし

成績評価の方法 ／Evaluation	評価は、２名の担当教員で行う。観察と実習日誌による活動の状況から、実践的指導力の向上を総合的に判断する。また、リフレクションと関連して行う、課題設定、計画立案、省察、改善等の過程も評価する。
学習上の助言 ／Learning Advice	受講者一人ひとりが，自分の「問い」と授業内容とを結びつけながら参加していただければと思います。

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	教育実践ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄⅡA（特別支援学校）
代表教員名／Instructor	司城　紀代美 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	池本　喜代正（教育学部），岡澤　慎一（教育学部）
授業種別／Type of class	実習
時間割コード／Registration Code	ME404160
ナンバリング／Numbering ※試行中	
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　通年不定時／Year-long
開講曜日　時限／Class period	他／Oth.
単位数／Credits	5
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	司城　紀代美(司城 紀代美(shijo@cc.utsunomiya-u.ac.jp))
オフィスアワー／Office hours	司城　紀代美(司城 紀代美(前期：水曜16:00～17:00，後期：金曜17:00～18:00 その他メールにて問い合わせてください。))

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	教育実践ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄⅡA（特別支援学校）
代表教員名／Instructor	司城　紀代美 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	池本　喜代正（教育学部），岡澤　慎一（教育学部）
授業種別／Type of class	実習
時間割コード／Registration Code	ME404160
ナンバリング／Numbering ※試行中	
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　通年不定時／Year-long
開講曜日　時限／Class period	他／Oth.
単位数／Credits	5
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	司城　紀代美(司城 紀代美(shijo@cc.utsunomiya-u.ac.jp))
オフィスアワー／Office hours	司城　紀代美(司城 紀代美(前期：水曜16:00～17:00，後期：金曜17:00～18:00 その他メールにて問い合わせてください。))

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	栃木の学校改革
代表教員名／Instructor	菊地　高夫 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	未定1、未定2、石嶋和夫
授業種別／Type of class	
時間割コード／Registration Code	M402130
ナンバリング／Numbering ※試行中	9999999F
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　前期集中／Intensive
開講曜日　時限／Class period	他／Oth.
単位数／Credits	2
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	
オフィスアワー／Office hours	

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/17
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	栃木県の学校が置かれた多様な現状を多面的に理解し、全国的な学校改革との関連や特殊性・課題等を考察して、新たな学校改革の方向性を模索し、自分なりの展望を持てるようになることを目的とする。授業では、栃木県の学校現場ないし教育行政の経験を有する担当教員から講義を受ける。また，栃木県において教育の各分野をリードするゲスト講師も招聘することで，幅広い教育課題に対応する講義とする。各講義の後に，全員で討論を行い理解を深めていく。授業の最後に、現職教員は自校の学校改革プランを構想・立案し、発表と相互評価を行う。将来、創造的な学校改革を自ら構想・実践するための柔軟な発想力や思考枠組みの形成を目指す。
授業の到達目標 ／Course Goals	（現職院生） ミドル・リーダーとして、栃木の学校を取り巻く様々な環境や実態を理解し、現状を客観的に評価することを通して、勤務校の課題を抽出し、具体的な改革構想を提案することができる。さらに、市町や県への提案に結び付くような具体的なアイデアを発想できることが望ましい。 （学卒院生） 将来のリーダーとして、栃木の学校の置かれた多様な現状を理解し、課題を整理して、現状の評価および将来の改革構想を描き出すことができる。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	選択科目 主に学校改革力を育成する科目である。
前提とする知識 ／Prerequisites	栃木県の教育に関する基礎知識
関連科目 ／Related Courses	共通科目では、「学校改革の実際と課題」と関連があります。 選択科目の「学校評価の開発実践」と関連があります。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	毎回、テーマに沿って、栃木県の学校現場／教育行政の経験者である担当教員と、栃木県教育委員会／県内市町教育委員会の行政担当者が共同で講義を行った後、全員で討論を行っていく。最後に各自が構想する学校改革プランのプレゼンテーションを行い、相互評価を行う。 （共に学ぶ効果と手だて） 現職院生は、学校が抱える様々な課題やその解決法について豊富な経験知を持っている。本授業で栃木県の教育現場・行政経験者ならびに政策に携わる行政担当者から改めて講義を受けることによってそれらを相対化し、柔軟で新しい発想へとつなげていく。学卒院生は、経験知を客観化し再構築していく現職院生の学習プロセスから学びつつ、栃木の学校の未来について自分なりに考えていくことが可能になる。また現場経験者、政策担当者、受講生の三者によって展開される活発な討論の積み重ねによって栃木県の学校経営・教育実践を新たな地平に導く豊かなアイデアが数多く創出することも期待される。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	１．栃木の教育の特色①―「栃木県教育振興基本計画」から― ２．栃木の教育の特色②―全国との比較を通して― ３．栃木の教育施策の全体像―県と市町の関係に着目して― ４．栃木の教育課程施策 ５．栃木の教育方法・少人数学級 ６．栃木の学力と学力向上策 ７．栃木の特色ある教育 ８．栃木の特別支援教育 ９．栃木の学校間接続 １０．栃木県内の小中一貫教育 １１．　栃木の学校―地域の連携 １２．　栃木の人権教育・キャリア教育・児童生徒指導 １３．学校改革プラン立案：演習 １４．学校改革プラン発表：プレゼンテーション １５．総括的討論
教科書・参考書等 ／Textbooks	栃木県教育委員会『栃木県教育振興基本計画2020』2016年　ほか

成績評価の方法 ／Evaluation	討論への参加状況、プレゼンテーション等を総合的に判断して評価する。
学習上の助言 ／Learning Advice	学校改革に必要な実践力と専門性を磨いていきましょう。
キーワード ／Keywords	栃木県の教育 教育改革

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	理科授業デザイン論
代表教員名／Instructor	人見　久城 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	
授業種別／Type of class	
時間割コード／Registration Code	M402270
ナンバリング／Numbering ※試行中	9999999F
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　後期／Second semester
開講曜日　時限／Class period	月／Mon　7 , 月／Mon　8
単位数／Credits	2
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	人見　久城(人見 久城(hitomi@cc.utsunomiya-u.ac.jp))
オフィスアワー／Office hours	人見　久城(人見 久城(月 １３：００～１４：２０))

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/16
ＡＬ度 ／Active Learning	AL50
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	理科教育の基礎理論を理解し，学習内容の分析や，教材研究，学習指導案作成，模擬授業をおこない，理科授業を立案して展開する方法を体験的に学ぶ。
授業の到達目標 ／Course Goals	理科教育の基礎理論の概要を理解することができる。 理科の学習内容分析，教材研究の方法を身に付ける。 学習指導案作成と模擬授業を通して，授業を立案して展開する力を身に付ける。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	選択科目である。 主に、授業力を育てることをねらいとする科目である。
前提とする知識 ／Prerequisites	共通科目「教材開発と教育方法の実践と課題」「授業研究の運営と課題」では、確かな学力・創造的な学力を保障する教材開発と教育方法や授業研究の方法を学ぶ。「授業実践基礎」では，授業観察と授業改善の方法を学ぶ。
関連科目 ／Related Courses	共通科目「教材開発と教育方法の実践と課題」「授業研究の運営と課題」では、確かな学力・創造的な学力を保障する教材開発と教育方法や授業研究の方法を学ぶ。「授業実践基礎」では，授業観察と授業改善の方法を学ぶ。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	（授業の方法） 講義，演習，プレゼンテーションを組み合わせる。第１～１０回および第１５回は，議論を含む講義，演習形式で行う。第１１～１４回は，受講生によるプレゼンテーション形式で行う。 （共に学ぶ効果と手立て） 現職院生は，授業における指導経験と児童生徒の学び関する知識を持っている。学卒院生は，理科授業を受講する側からの経験はあるが，指導経験は教育実習等での限定的なものだけである。このような差のある集団で，理科授業に関する議論を進める。 学卒院生は，学部における理科教育法の授業を振り返り，指導のノウハウだけでなく，それを支える基礎的な考え方へ理解を深めるようになる。現職院生は，指導法を支える基礎的理論を復習し，自身の指導経験を振り返ることを通して，理科授業における多様性を確認する。 学習指導案の作成と模擬授業を実践することで，理科授業を立案して展開する方法を体験的に学ぶ過程で，学卒院生と現職院生の見方の異同を相互に確認しながら，深い学びを得るようにする。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	１～１０，１５は講義，演習形式，１１～１４はプレゼンテーション。 １，オリエンテーション 授業についての見通しや後半の課題発表について説明する。 受講者自身が形成している理科授業観を公開し，理科教育の意義を考える。 ２，学習指導要領，理科の目的，目標 理科の目的と目標について，学習指導要領に沿って理解する。 ３，子どもの自然認識と学習指導 自然事象に対する子どもの理解のしかたを学び，理科学習の指導上の留意点を整理する。 ４，科学概念 自然科学と理科教育における科学概念の関係を学ぶ。 ５，理科の教育課程 教育課程の特質，学習内容の系統性や一貫性について学ぶ。 ６，理科の学習論 理科授業を支える学習論を学ぶ。 ７，小学校理科の学習内容と教材研究 小学校理科の学習内容の配列や教材の特質を学ぶ。

	８，中学校理科の学習内容と教材研究（１） 中学校理科の物理，化学分野における学習内容の配列や教材の特質を学ぶ。 ９，中学校理科の学習内容と教材研究（２） 中学校理科の生物，地学分野における学習内容の配列や教材の特質を学ぶ。 １０，理科と関連する内容と教材研究 言語活動、環境教育等の内容の特質を学ぶ。 １１～１４，学習指導案の作成 と模擬授業 受講生の関心にもとづいて，小・中・高校理科の中から，１校時分の学習指導案を作成する。それに基づき，導入部分（１０分程度）の模擬授業をおこない，学習指導案の特質を検討する。 １５，まとめ 第１回で公開した受講者自身の理科授業観について，その変化の有無などを議論し，理科教育の課題を探る。
教科書・参考書等 ／Textbooks	角屋重樹編： 新しい学びを拓く理科授業の理論と実践－小学校編、ミネルヴァ書房（2011). 大髙 泉編： 新しい学びを拓く理科授業の理論と実践－中学・高等学校編、ミネルヴァ書房（2013). その他のテキストは授業時に紹介する。
成績評価の方法 ／Evaluation	毎時間のミニレポート，学習指導案，模擬授業の発表等を総合的に判断する。
学習上の助言 ／Learning Advice	社会や時代の変化に対応した理科とはどのようなものでしょうか。理科の教師とは，何を身に付け，何ができるようになればよいのでしょうか。授業デザインを通して，探究したいと思っています。

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	病弱教育の理論と実践
代表教員名／Instructor	岡澤　慎一 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	
授業種別／Type of class	演習
時間割コード／Registration Code	M402300
ナンバリング／Numbering ※試行中	
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　後期／Second semester
開講曜日　時限／Class period	月／Mon　9 , 月／Mon　10
単位数／Credits	2
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可
連絡先／Contact	岡澤　慎一(岡澤 慎一(028-649-5350|okazawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp))
オフィスアワー／Office hours	岡澤　慎一(岡澤 慎一(月曜9:00～10:00，12:10～12:40))

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/02/04
ＡＬ度 ／Active Learning	AL50
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	ー
授業の内容 ／Course Description	病弱教育の特色・教育内容について実践事例を通して学ぶ。病弱な子どもとの教育的係わり合いの展開過程について映像資料を用いて紹介し，係わりの糸口や行動のとらえ方，行動の意味などについて具体的に検討する。
授業の到達目標 ／Course Goals	病弱の子どもが抱える困難と障害状況について理解を深めるとともに、肢体不自由がある子どもとの教育的係わり合いの実際について具体的に検討することをとおして、肢体不自由がある子どもの行動の意味を捉えるための基本的な観点について学ぶことを目的とする。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	特別支援教育におけるより深い実践的省察力の形成・促進を意図した科目である.
前提とする知識 ／Prerequisites	特別支援教育全般に関する十分な知識
関連科目 ／Related Courses	肢体不自由教育の理論と実践，障害の重い子どもの教育の在り方
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	教員が用意するハンドアウトおよび映像資料に基づき，受講生との議論を重ねながら進める
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	授業計画 第1回　病弱の定義と状態像 第2回　病弱の子どもが抱える困難と障害状況 第3回　病弱の子どもの状態像1（慢性疾患） 第4回　病弱の子どもの状態像2（精神疾患） 第5回　病弱の子どもの状態像3（重症心身障害） 第6回　病弱の子どもの教育1（特別支援学校における教育） 第7回　病弱の子どもの教育2（特別支援学級における教育） 第8回　病弱の子どもの教育3（通常学級における教育） 第9回　病弱の子どもとの教育的係わり合いの視点1（コミュニケーション） 第10回　病弱の子どもとの教育的係わり合いの視点2（自立活動） 第11回　病弱の子どもとの教育的係わり合いの視点3（感覚運動） 第12回　病弱の子どもとの教育的係わり合いの視点4（セルフケア） 第13回　病弱の子どもとの教育的係わり合いの実際1（慢性疾患事例） 第14回　病弱の子どもとの教育的係わり合いの実際2（精神疾患事例） 第15回　病弱の子どもとの教育的係わり合いの実際3（重症心身障害事例） 試験は実施しない
教科書・参考書等 ／Textbooks	参考書・参考資料等 重度・重複障害児指導研究会（編）（1979）講座　重度・重複障害児の指導技術　第1巻～第6巻　岩崎学術出版社 川住隆一（1999）生命活動の脆弱な重度・重複障害児への教育的対応に関する実践的研究　風間書房
成績評価の方法 ／Evaluation	毎回のショートレポート（10%）と最終課題レポートおよび試験（80%）および授業中の発言や受講態度（10%）にて総合的に評価する。
学習上の助言 ／Learning Advice	

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	道徳授業デザイン論
代表教員名／Instructor	和井内　良樹 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	上原秀一（教育学部）
授業種別／Type of class	
時間割コード／Registration Code	M402290
ナンバリング／Numbering ※試行中	9999999F
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　後期／Second semester
開講曜日　時限／Class period	金／Fri　3 , 金／Fri　4
単位数／Credits	2
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	和井内　良樹(和井内 良樹(Tel 028-649-5335| Mail wainai@cc.utsunomiya-u.ac.jp wainai@u-gakugei.ac.jp))
オフィスアワー／Office hours	和井内　良樹(和井内 良樹(火12:20～12:50 14:30~15:00 木12:20～12:50 16:00~16:30|||))

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/18
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	本授業は、道徳教育の意味と目的などの理論的吟味を踏まえた上で、学校における道徳教育および道徳授業の実践的課題について考えていく。特に「特別の教科 道徳」の特質を踏まえ、新しい道徳授業のあり方についても受講生とともに考えていきたい。
授業の到達目標 ／Course Goals	本授業では、次の2点を目標とします。 ①道徳教育の基本的内容を踏まえながら、道徳授業の機能的役割をについて理解することができる。 ②様々な道徳授業の理論に学びながら、研究授業レベルの道徳学習指導案を構想し、道徳授業をデザインすることができる。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	教職に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫する。
前提とする知識 ／Prerequisites	学士課程における教育の原理的知識および道徳教育の基礎的知識を修得している。
関連科目 ／Related Courses	特になし
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	本授業では、道徳授業の実際場面を視聴しながら道徳授業の機能的役割について授業を進める。道徳授業の理論について受講者がレジュメを作成して分担発表し、それに基づいて受講者全体で協議する。各自の道徳研究テーマに沿って研究授業指導案を構想し、受講生相互に模擬授業を行い成果と課題を検証する。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	1.ガイダンス 2.道徳授業実践研究①小学校低学年 3.道徳授業実践研究②小学校中学年 4.道徳授業実践研究③小学校高学年 5.道徳授業実践研究④中学校 6.道徳授業の理論研究①※ 7.道徳授業の理論研究② 8.道徳授業の理論研究③ 9.道徳授業の理論研究④ 10.道徳授業の理論研究⑤ 11.様々な教育課題と道徳授業 12.諸外国における道徳教育 13.研究授業指導案演習① 14.研究授業指導案演習② 15.まとめ
教科書・参考書等 ／Textbooks	教科書：適宜資料を配付する。 参考書：押谷由夫 柳沼良太編著『道徳の時代をつくる！』教育出版(2014) 参考書：『私たちの道徳 小学校一・二年』文部科学省(2014) 『私たちの道徳 小学校三・四年』文部科学省(2014) 『私たちの道徳 小学校五・六年』文部科学省(2014) 文部科学省編著『私たちの道徳 中学校』廣済堂あかつき株式会社(2014)
成績評価の方法 ／Evaluation	分担発表（50%）、レポート・学習指導案（50%）
学習上の助言 ／Learning Advice	分担発表では、単に概要の説明に留まらず、問題意識を持って自分で発展的に調べてもらいたい。また、授業時はできるだけ積極的に発言してもらいたい。

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	特別支援教育コーディネーターの役割と課題／Roles and Tasks of Special Education Coordinator
代表教員名／Instructor	原田 浩司 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	
授業種別／Type of class	
時間割コード／Registration Code	M402320
ナンバリング／Numbering ※試行中	9999999F
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　後期／Second semester
開講曜日　時限／Class period	他／Oth.
単位数／Credits	2
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	原田 浩司(kharada@cc.utsunomiya-u.ac.jp)
オフィスアワー／Office hours	原田 浩司(金曜日12:30～16:00)

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2018/12/24
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	15回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	主として通常の小学校・中学校における特別支援教育コーディネーターの役割と機能について学ぶ。学校内の関係者間での連携協力および特別支援学校などの教育機関や医療・福祉機関などとの連携協力に関する実践事例を取り上げ、必要な資質や知識・技能など専門家としての力量形成を促す。
授業の到達目標 ／Course Goals	（現職院生） 特別支援教育コーディネーターの役割と課題を理解し、専門家としての資質向上を図る。 事例をもとにした演習を通して、校内外の関係者・機関と連携することのできる専門性を習得する。 （学卒院生） 特別支援教育コーディネーターの役割と課題ついての知識と理念を理解する。 実践事例を通して特別支援教育コーディネーターの役割と機能について理解し、専門家としての力量向上を図る
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	選択科目 主に個への対応力を育成することをねらいとする科目である。
前提とする知識 ／Prerequisites	特別支援教育コーディネーター、校内委員会、個別の指導計画に関する基礎知識
関連科目 ／Related Courses	共通科目では、「「特別支援教育の実践と課題」「学校改革の実践と課題」「学校教育をめぐる現代的社会状況とその対処」と関連があります。 選択科目では、「授業における個のとらえ方と対応」「特別な支援が必要な子どもへの理解と対応」「障害が重い子どもへの教育の在り方」と関連します。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	（授業の方法） 授業者による講義のほかに，様々な実践事例をもとにして受講者全体あるいは少人数による研究・討論を行う。 演習においては，特別支援教育コーディネーターが行う校務内容を学校や地域の実態に応じて吟味し、支援が必要な子どもにどのような有効性があるのかを分析する。事例検討では，現職院生の具体的な経験を取り上げ，学校現場の複雑な問題に対してどのように対応するかを検討する。また、演習の中にロールプレイングの時間を設定し、特別支援教育コーディネーターの多様な取り組みと柔軟な支援方法についても体験を通して学習・研究・分析する力量形成を促す。 （共に学ぶ効果と手だて） 現職院生，学卒院生ともに，特別支援教育コーディネーターの多様な能力・資質が求められていることに気付き，より多角的な視点とコミュニケーション力をもつことができると考えられる。 事例検討においては，現職院生は自分の学校の実践の中から事例を選び，資料を作成したり，校内支援体制についてまとめたりすることで，特別支援教育コーディネーターとの関係性を省察することができ，学卒院生は，現職院生の実践に触れることで，学校現場における実践的で複雑な支援システムについて考察することができる。両者がともに特別支援教育コーディネーターの役割について検討することで，学校現場で経験や能力・適性が異なる教員同士をまとめていくプロセスについて考察することが可能になる。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	１．授業の趣旨・進め方の確認。「特別支援教育コーディネーターとは」について講義し、特別支援教育の果たすべき役割と課題についての課題意識を明確にする。 ２特別支援教育の諸活動と特別支援教育コーディネーターの役割について事例をもとに検討する。 ３特別支援教育コーディネーターの校務内容と資質・技能の関連性について事例をもとに検討する。 ４．学校経営の機能と特別支援教育コーディネーターの関係性について事例をもとに検討する。 ５．校内委員会の運営と特別支援教育コーディネーターの果たすべき役割について事例をもとに検討する。 ６．外部機関との連携について特別支援教育コーディネーターの果たすべき役割について事例をもとに検討する。

	７．幼保小中高の連携・協力と特別支援教育コーディネーターの果たすべき役割について事例をもとに検討する。 ８．就学指導と特別支援教育コーディネーターの果たすべき役割について事例をもとに検討する。 ９．児童生徒指導と特別支援教育コーディネーターの関係性について事例をもとに検討する。 １０．ロールプレイング：校内委員会を擬似的に設定し特別支援教育コーディネーターの役割を交代で体験することで、コーディネーターとしての資質や適性について検討する。 １１．ロールプレイング：校内委員会を擬似的に設定し特別支援教育コーディネーターの役割を交代で体験することで、コーディネーターの役割と課題について検討する。 １２．発達障害の指導事例をもとに学級担任への助言や校内支援体制の整備など特別支援教育コーディネーターに求められる専門性について検討する。 １３．学習不適応や対人関係が困難な子が複数いる学級への介入について、事例をもとに特別支援教育コーディネーターに求められる専門性について検討する。 １４．学校内に複雑な問題が多数混在している危機的な状況への介入について、事例をもとに特別支援教育コーディネーターに求められる専門性について検討する。 １５．授業全体を振り返り、特別支援教育コーディネーターの役割と課題について各自の考えを交流する。
教科書・参考書等 ／Textbooks	柘植雅義著「特別支援教育―多様なニーズへの挑戦－」中公新書。2013
成績評価の方法 ／Evaluation	研究協議後の省察レポート，討論におけるパフォーマンスを総合的に判断して評価する。
学習上の助言 ／Learning Advice	実践事例を通して学校現場で起こる複雑で多様な現実を理解しながら、実践力と専門性を磨いていきましょう。
キーワード ／Keywords	特別支援教育コーディネーター

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	教科教育特論
代表教員名／Instructor	牧野　智彦 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	溜池善裕（社会）・新井恵美（音楽）・飯田和明（国語）・久保元芳（保健体育）・出口明子（理科）・森田香緒里（国語）・ 山野有紀（英語）・石塚諭（保健体育）・川上貴（算数・数学）
授業種別／Type of class	演習
時間割コード／Registration Code	M4014300
ナンバリング／Numbering ※試行中	
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　後期不定時／Second semester
開講曜日　時限／Class period	他／Oth.
単位数／Credits	1
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	牧野　智彦(牧野 智彦(makino@cc.utsunomiya-u.ac.jp))
オフィスアワー／Office hours	牧野　智彦(牧野 智彦(水曜日15:00-16:00))

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/18
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	ー
授業の内容 ／Course Description	小・中・高等学校で展開されている各教科（具体的には国語，社会，地理歴史，公民，算数，数学，理科，英語，音楽，保健体育）に関して、学部（学士課程）で習得した内容を基盤に、その目標・歴史・指導方法などの観点から，より高度な理論や具体的な教育実践について理解する。教科ごとの具体的な内容や進め方については、各担当教員（下記参照）と相談の上で決定することとする。 担当教員：溜池善裕（社会）・新井恵美（音楽）・飯田和明（国語）・久保元芳（保健体育）・出口明子（理科）・牧野智彦（算数・数学）・森田香緒里（国語）・ 山野有紀（英語）・石塚諭（保健体育）・川上貴（算数・数学）
授業の到達目標 ／Course Goals	小・中・高等学校における各教科（国語、社会、地理歴史、公民、算数、数学、理科、英語、音楽、保健体育）の目標、歴史、指導方法等について学部（学士課程）で習得した内容をベースとして、より高度な理論や具体的な教育実践について理解を深め、連携協力実習校における実践研究に活かすことができる。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	教育実践高度化専攻の分野別選択科目における「授業改善に関する科目群」に位置付くものである。直接的には「授業力」の向上に資するための科目となる。
前提とする知識 ／Prerequisites	特になし。学卒院生は学部（学士課程）で学んだ各教科における方法論・内容論について復習することが望ましい。現職院生は、自らの実践を振り返るための記録を用意することで学修が深まると考える。
関連科目 ／Related Courses	前期開講の授業実践基礎および各授業デザイン論と合わせて履修することが望ましい。また、長期インターンシップや教育実践プロジェクトの授業実践の進捗と連動することで学修が深まる。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	（授業の方法） 　院生、各教科担当教員がチームを編成し、進めることを基本とする、後期、院生は連携協力実習校および附属学校において実習を行う。その実習における授業実践などの進捗に合わせて、各教科担当教員と相談の上、各科目に関する理論研究や実践研究などの先行研究を学んだり、学習指導案の作成などについて相談を行ったりする。院生は、学習内容した内容や進捗状況についてリフレクションなどにおいて主担当教員と情報共有を行うこととする。 （共に学ぶ手立て） 　現職院生、学卒院生、各教科担当教員がチームを編成して学ぶことを基本とする。これにより学卒院生は各教科の目標や歴史、実践例などについてより深い理解に達するとともに、日々の授業づくりに必要な技能を身につけることを目指す。さらに現職院生は、学卒院生とともに学ぶことで自らの実践を振り返ることや若手教員がどのような「困り感」を有しているのかを理解し、若手育成のための視点を養うことを促進させるようにする。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	10月（第1回目）　オリエンテーション（主担当教員も交えて今後のもち方の相談など） 11月～１月（第2回から第7回目） 実習における授業実践の進捗にあわせて、院生、各教科担当教員が適宜チームごとに学習を進める。
教科書・参考書等 ／Textbooks	教科担当教員ごとに設定する。
成績評価の方法 ／Evaluation	員と相談の上、行う。具体的な成果物や連携協力実習校における実習などに学習成果がどのように活かせたかなどを総合的に判断する。
学習上の助言 ／Learning Advice	特になし。
キーワード ／Keywords	授業力、各教科の目標や歴史、実践。
備考 ／Notes	履修にあたっては主担当教員とも相談をすること。

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	教材論
代表教員名／Instructor	井口　智文 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	南伸昌（教育学部）
授業種別／Type of class	演習
時間割コード／Registration Code	M401440
ナンバリング／Numbering ※試行中	
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　後期不定時／Second semester
開講曜日　時限／Class period	他／Oth.
単位数／Credits	1
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	井口　智文(028-649-5318／inokuchi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)
オフィスアワー／Office hours	井口　智文(（火）10：30～12：00 AM 井口研究室 （左記以外はe-mailで予約してください）))

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/17
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	小・中・高等学校における教科（具体的には理科系科目）について，教育内容の理解を深め，学部で習得したことをベースに、より高度な理論や具体的な教材研究について理解する。具体的な進め方については、各教科担当教員（下記参照）と相談の上、決定していく。 担当教員：井口智文（生物）、南伸昌（化学）
授業の到達目標 ／Course Goals	小・中・高等学校における各教科（具体的には理科系科目）の教育内容の理解を深め、学部（学士課程）で習得したことをベースに、より高度かつ最新の理論を学び、それを教材研究に活かすことができる。さらにその成果を連携協力実習校における実践研究に活かすことができる。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	教育実践高度化専攻の分野別選択科目における「授業改善に関する科目群」に位置付くものである。直接的には「授業力」の向上に資するための科目となる。
前提とする知識 ／Prerequisites	特になし。学卒院生は学部（学士課程）で学んだ各教科における方法論・内容論について復習することが望ましい。現職院生は、自らの実践を振り返るための記録を用意することで学修が深まると考える。
関連科目 ／Related Courses	前期開講の授業実践基礎および各授業デザイン論と合わせて履修することが望ましい。また、長期インターンシップや教育実践プロジェクトの授業実践の進捗と連動することで学修が深まる。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	（授業の方法） 　院生、教科担当教員がチームを編成し、進めることを基本とする、後期に院生が連携協力実習校および附属学校において行う授業実践などの進捗に合わせて、各教科担当教員と相談の上、各科目に関する高度かつ最新の理論を学ぶことで教材研究を深める。院生は、学習内容した内容や進捗状況についてリフレクションなどにおいて主担当教員と情報共有を行うこととする。 （共に学ぶ手立て） 　現職院生、学卒院生、各教科担当教員がチームを編成して学ぶことを基本とする。これにより学卒院生は各教科に関する高度で最新の理論に触れ、教材研究の進め方について学ぶ。さらに現職院生は、学卒院生とともに学ぶことで自らの教材研究のあり方を振り返ることや若手教員がもつ感性や「困り感」を有しているのかを理解し、若手育成のための視点を養うことを促進させるようにする。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	10月（第1回目）　オリエンテーション（主担当教員も交えて今後のもち方の相談など） 11月～１月（第2回から第7回目程度） 実習における授業実践の進捗にあわせて、院生、各教科担当教員が適宜チームごとに学習を進める。
教科書・参考書等 ／Textbooks	教科担当教員ごとに設定する。
成績評価の方法 ／Evaluation	評価は、教科担当教員が主担当教員と相談の上、行う。具体的な成果物や連携協力実習校における実習などに学習成果がどのように活かせたかなどを総合的に判断する。
学習上の助言 ／Learning Advice	特になし。
キーワード ／Keywords	授業力、教材研究。

シラバス参照

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

授業科目名／Course title	知的障害教育の理論と実践
代表教員名／Instructor	司城　紀代美 (教育学部)
代表以外の教員名／Other Instructor	池本喜代正（教育学部），石川由美子（教育学部）
授業種別／Type of class	演習
時間割コード／Registration Code	M401235
ナンバリング／Numbering ※試行中	9999999F
開講学期／Semester	2019年度／Academic Year　後期集中／Intensive
開講曜日　時限／Class period	他／Oth.
単位数／Credits	2
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可
連絡先／Contact	司城　紀代美(司城 紀代美(shijo@cc.utsunomiya-u.ac.jp))
オフィスアワー／Office hours	司城　紀代美(司城 紀代美(前期：水曜16:00～17:00，後期：金曜17:00～18:00 その他メールにて問い合わせてください。))

授業情報／Course Information

授業基本情報　授業概要情報

更新日／Date of Renewal	2019/01/17
ＡＬ度 ／Active Learning	AL80
実務家による授業回数 ／Course Count	0回
地域に関する実践項目 ／Practice Courses	○
授業の内容 ／Course Description	知的障害教育のあり方について実践的に学ぶ。 知的障害児教育の著作の購読，授業ビデオの視聴を通して，知的障害児に対する教育方法や指導方法について検討する。また，人が人とかかわるということ,共に生きるかたちを視点に,知的障害児への臨床発達心理学的な学びについても深める。さらに，知的障害教育における授業研究のあり方について検討する。
授業の到達目標 ／Course Goals	（現職院生） 知的障害のある子どもを理解する多角的な視点を獲得し、その教育方法や指導方法について理解を深める。また、知的障害教育における授業研究の方法論を習得する。 （学卒院生） 知的障害のある子どもを理解する視点を広げ、その教育方法や指導方法について理解する。また、知的障害教育における授業研究の方法論について知る。
学修・教育目標との関連 ／Educational Goals	学卒院生と現職院生が共に授業に参加し活動をすることで，学卒院生は，具体的な子ども理解や指導・支援の方法と背景にある教師の考え等を学ぶことができる。また，現職院生は学卒院生の疑問や新鮮な考えに触れることで，自らの実践を振り返ることができる。
前提とする知識 ／Prerequisites	共通科目では、「特別支援教育の実践と課題」と関連する。 選択科目では、個に応じた支援に関する科目群と関連する。
関連科目 ／Related Courses	共通科目では、「特別支援教育の実践と課題」と関連する。 選択科目では、個に応じた支援に関する科目群と関連する。
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	３人の教員によるオムニバス形式の授業である。講義や文献講読，授業ビデオの視聴および分析，グループワーク，全体討議を組み合わせて行う。
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	１　オリエンテーション・知的障害とは（池本） ２　知的障害教育の基本文献について（池本） ３　先人の教育思想と方法について（池本） ４　ビデオ視聴による特別支援学校の授業分析（１）（池本） ５　ビデオ視聴による特別支援学校の授業分析（２）（池本） ６　知的障害児の発達・学習に関する理論（１）（石川） ７　知的障害児の発達・学習に関する理論（２）（石川） ８　間主観性と相互主体性（１）（石川） ９　間主観性と相互主体性（２）（石川） １０　物語性を重視した「共に生きるかたち」を再考する（石川） １１　知的障害教育における授業研究のあり方（１）（司城） １２　知的障害教育における授業研究のあり方（２）（司城） １３　知的障害教育における授業研究の実際（１）（司城） １４　知的障害教育における授業研究の実際（２）（司城） １５　教師の省察について考える（司城）
教科書・参考書等 ／Textbooks	テキストは使用しない。 参考書：障害児の教授研究会編『エピソードから読み解く特別支援教育の実践』福村書店，2017．その他，適宜紹介する。
成績評価の方法 ／Evaluation	授業中のショートレポート30%，最終レポート40%，討議での発言等のパフォーマンス30%
学習上の助言 ／Learning Advice	受講者一人ひとりが，自分の「問い」と授業内容とを結びつけながら参加していただければと思います。